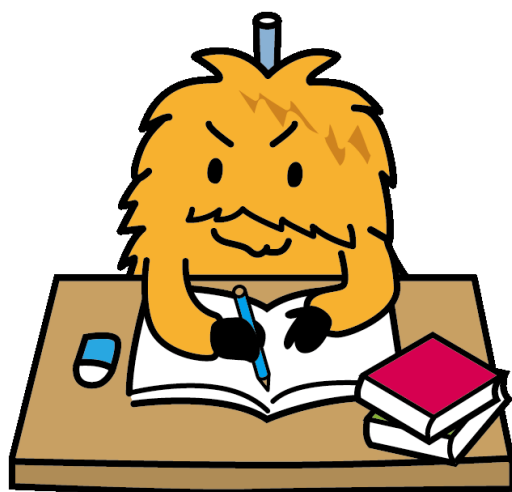


教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価の結果報告書  
—平成29年度実績—



平成30年9月  
栗原市教育委員会

## 目 次

<b>1 点検・評価制度の概要</b> . . . . .	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
<b>2 点検・評価の結果</b>	
<b>【学府くりはらの学校教育】</b>	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援 . . . . .	7
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 . . . . .	10
自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進 . . . . .	16
いじめを許さない学校づくりの推進 . . . . .	17
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、 特別支援教育の推進 . . . . .	19
健やかな身体を培う体育・健康教育の充実 . . . . .	21
<b>【学府くりはらの社会教育】</b>	
生涯にわたる学習機会の提供 . . . . .	22
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実 . . . . .	27
国際理解のための学習や事業の推進 . . . . .	29
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進 . . . . .	30
文化財の保存・継承活動の推進 . . . . .	31
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 . . . . .	34
<b>3 学識経験者の意見</b> . . . . .	37
<b>4 栗原市教育委員会の今後の方向性</b> . . . . .	38

## 1 点検・評価制度の概要

### (1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

#### <参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### (2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定しました。

- 小 塩 さとみ 氏 【専門領域】 音楽学  
【研究テーマ】 アジアの音楽研究（日本の三味線音楽、ベトナムの伝統音楽）  
【現在】 宮城教育大学教授（音楽教育講座）
  
- 金 田 裕 子 氏 【専門領域】 教育方法 教育課程  
【研究テーマ】 参加構造 授業研究 カリキュラム研究  
【現在】 宮城教育大学准教授（教職大学院）

### (3) 点検及び評価の対象

平成29年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

## 平成29年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造を目指し、次代を担う子どもたちの創造性、自主性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

### 教育の目標及び具体的施策

#### 「学府くりはら」の学校教育

##### 学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 安全・安心な学校教育の推進
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの心身の健康と体力の向上

##### 目指す『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

#### 「学府くりはら」の社会教育

##### 社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の推進
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

## 学校教育の具体的施策

### 【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

<p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するための35人を標準とする学級編制と少人数指導の実施</li> <li>② 個性を伸ばし児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための学校教諭や補助員の配置</li> <li>③ 市立学校再編計画（後期計画）に基づく学校再編の推進と教育環境整備の推進</li> <li>④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進</li> <li>⑤ 幼児教育の充実と、3年間の就園機会を図るための保護者の経済的負担の軽減</li> <li>⑥ 経済的理由により就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助と就学機会の確保</li> <li>⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための、特別支援学級に通級している保護者の経済的負担の軽減</li> <li>⑧ 通学における利便と安全確保を図るための、遠距離通学の幼児児童生徒への通学支援</li> <li>⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施及び結果に基づく協力体制の構築と協働教育の推進</li> <li>⑩ 栗駒山麓ジオパークをはじめとする豊かな自然環境を生かしたふさと教育や農業体験学習の推進</li> </ul>
------------------------------	--

### 【子どもたちの確かな学力の育成】

<p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進</li> <li>② 市独自の研究指定校事業、教員の先進地派遣研修事業等を軸としたより効果的な学力向上対策の推進と共有</li> <li>③ 幼稚園、小学校、中学校の教職員を対象とした教育力向上に資する講演会の実施</li> <li>④ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援</li> <li>⑤ 全国学力・学習状況調査、県学習意識調査、(仮称)県英語検定、市独自の標準学力テストの実施と分析による課題の把握に基づいた、継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上</li> <li>⑥ 確かな学力の育成に資する教科指導等におけるICTの効果的な活用を図るための研修会の実施</li> <li>⑦ 国際理解を深め、英語教育を充実するためのALTの配置と英語に慣れ親しむための事業や教員対象の研修会の実施</li> <li>⑧ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上、自主的学習の習慣化を図るための学習会の実施</li> <li>⑨ 家庭における学習習慣の確立のための教員や保護者、生徒を対象とした講演会の実施</li> <li>⑩ 望ましい基本的生活習慣の定着と部活動等の適正化による家庭学習時間の確保</li> <li>⑪ 中学校と市内高等学校の連携による学習会の実施</li> <li>⑫ 経済的な理由により修学することが困難な生徒や学生に対する奨学資金の貸与</li> </ul>
---	--

### 【安全・安心な学校教育の推進】

<p>自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 発達段階に応じて自らの命を守るための危険予知能力の育成</li> <li>② 貴重な地域資源である栗駒山麓ジオパークを活用した防災教育等の推進</li> <li>③ 防犯を含む生活安全教育や交通安全教育の推進</li> <li>④ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の見直しと関係機関との連携強化</li> <li>⑤ 通学路の安全の確保のための関係機関等との連携と適切な対策の推進</li> <li>⑥ 学校の防犯、防災、安全管理体制の整備推進</li> <li>⑦ 学校遊具の安全点検の実施</li> </ul>
-------------------------------------	--

## 【子どもたちの豊かな心の醸成】

いじめを許さない学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「栗原市いじめ防止基本方針」や各校園の「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づくいじめ問題についての教職員間の共通理解及び教育相談等の学校全体での組織的な取組の推進</li> <li>② いじめや不登校などの問題行動の未然防止や早期発見・早期対応等による迅速な問題解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進</li> <li>③ いじめの未然防止及び早期発見のためのQ-U調査等の結果の活用を図る研修会の実施と、人間関係づくりや学級活動への意欲、学びや進路選択・実現の意欲に満ちた学級づくりの推進</li> <li>④ いじめ問題の重大事態の調査の実施や「いじめ・不登校対策担当者」等を中心としたいじめ防止対策体制の強化</li> <li>⑤ 学校・保護者等での「重大事態発生時における緊急対応手引き」についての共通理解の深化</li> <li>⑥ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進</li> </ul>
一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進を図る支援事業の実施</li> <li>② 幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続を図るための教育課程の編成と連携事業の実施</li> <li>③ 子どもたちの問題行動に関する対応策の提案などを行う教育相談事業の実施</li> <li>④ 不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指した適応指導教室の運営と登校支援ネットワーク事業の活用</li> <li>⑤ 支援を必要とする児童生徒の理解を深め、自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進と関係機関との連携を図る協議会の開催</li> <li>⑥ インクルーシブ教育システムの実現を理念とした、関係機関との連携の推進や特別支援コーディネーターのスキルアップと校内支援体制の構築を図るための研修会の実施</li> <li>⑦ 支援を必要とする児童生徒の保護者等への丁寧な説明と合意形成による、児童生徒の立場に立った適切な就学指導の実施</li> <li>⑧ 発達障害や困り感のある児童生徒の教育的ニーズを把握し、生活や学習の困難を改善するための「個別的教育支援計画」の作成・活用に向けた支援（特別支援学校との連携）</li> </ul>

## 【子どもたちの心身の健康と体力の向上】

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進</li> <li>② 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進</li> <li>③ 安全安心な学校給食の提供と食物アレルギー対策の実施</li> <li>④ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進</li> <li>⑤ 幼児児童生徒及び教職員の健康促進のための健診事業</li> </ul>
---------------------	---

## 社会教育の具体的施策

### 【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供	<p>【家庭教育の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供</li> <li>② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実</li> <li>③ 関係機関と連携した子育て支援の推進</li> </ul>
	<p>【青少年期の活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域少年団体の育成と活動の支援</li> <li>② 少年教育推進体制の整備</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 学習、交流活動の機会と場の提供</li> <li>④ 協働教育事業の推進</li> <li>⑤ 放課後児童健全育成事業の推進</li> <li>⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援</li> <li>⑦ 青年教育推進体制の整備</li> </ul>
	<p>【成年期の活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習、交流活動の機会と場の提供</li> <li>② 成人教育体制の整備</li> <li>③ 指導者の育成と活動の場の提供</li> <li>④ 生涯学習団体等の育成、支援</li> <li>⑤ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の提供</li> </ul>
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催</li> <li>② 学習情報の提供</li> <li>③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成</li> <li>④ 市民の学習ニーズの把握</li> <li>⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備</li> <li>⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進</li> <li>⑦ 図書館及び図書室が連携したサービスの充実</li> </ul>
国際理解のための学習や事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 海外派遣事業の充実</li> <li>② 外国人との交流事業の推進</li> <li>③ 国際交流関係団体との連携強化</li> </ul>

### 【地域に根ざした文化芸術の推進】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援</li> <li>② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供</li> <li>③ 文化芸術体験機会の拡充</li> <li>④ 文化施設の設備充実と環境整備</li> </ul>
--------------------------	--

### 【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・継承活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の文化財の調査、保存活用と公開</li> <li>② 史跡等の環境整備の推進</li> <li>③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実</li> <li>④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援</li> </ul>
----------------	--

### 【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① スポーツを行う場の提供と市民の健康づくりや体力づくりへの支援</li> <li>② スポーツ指導者の育成とスポーツ人口の拡大</li> <li>③ 社会体育施設の設備充実と環境整備</li> <li>④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成</li> <li>⑤ 学校との連携強化</li> <li>⑥ 東京オリンピック事前キャンプ誘致に向けた取組</li> </ul>
------------------------	---

点検及び評価項目一覧（平成29年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「学校活性化プラン事業」	A
			2 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」	B
			3 「幼稚園、小・中学校のホームページ開設」	A
	子どもたちの確かな学力の育成	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	4 「教育研究センター事業」	A
			5 「学力向上対策プロジェクト事業」	B
			6 「学力向上支援事業」	B
			7 「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	A
			8 「学校ICT環境推進事業」	A
			9 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	B
	安全・安心な学校教育の推進	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	10 「地域と連携した避難訓練の推進」	A
	子どもたちの豊かな心の醸成	いじめを許さない学校づくりの推進	11 「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」	B
			12 「スクールソーシャルワーカー活用事業」	A
		一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	13 「志教育支援事業」	A
			14 「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」	B
	子どもたちの心身の健康と体力の向上	健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	15 「全国体力・運動能力調査の結果分析」	B
共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	16 「家庭教育学級」	A
			17 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	B
			18 「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」	A
			19 「放課後児童クラブ」	A
			20 「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」	B
	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	21 「協働教育推進事業」	B	
		22 「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」	B	
地域に根ざした文化芸術の推進	文化財の保存と活用の推進	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	23 「青空大使派遣事業」	B
			24 「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチほか各種芸術鑑賞会」	B
			25 「史跡伊治城跡整備事業」	A
地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・継承活動の推進	26 「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B
			27 「標柱等更新計画の策定」	A
			28 「栗原ハーフマラソン大会」	B
楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	心身の健康保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	29 「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」	B
			30 「宮城ヘルシー2017ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」	A



施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課
<b>1 目的</b>				
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。				
<b>2 具体的事業</b>				
施策を構成する事業			目標指標	
1「学校活性化プラン事業」			/	
事業概要及び目標				
通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置し、児童の学校生活を支援すると共に、個々のケースに応じた、よりきめ細かな学習指導や生活指導を行う。				
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>				
取組と成果				
<p>通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒について、学校と連携を密にしなから、補助員を配置した。また、年度途中においても、学校からの要望に基づき、実態調査等を行い、補助員を配置し、すべての学校の要望に対応した。</p> <p>その結果、児童生徒の学校生活における安全の確保と生活指導に効果があった。また、当該児童生徒だけでなく、クラス全体が落ち着いた環境で学習ができるようになった。</p> <p>○ 小学校 36人      築館小学校4人 宮野小学校3人 若柳小学校4人      栗駒小学校4人 栗駒南小学校2人 高清水小学校2人 一迫小学校5人      瀬峰小学校2人 鶯沢小学校2人 金成小学校3人 志波姫小学校3人      花山小学校2人</p> <p>○ 中学校 12人      築館中学校3人 若柳中学校2人 栗駒中学校3人 高清水中学校1人      志波姫中学校2人 栗原西中1人</p>				
<b>評 価</b>				
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)			
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)			
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)			
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>				
各学校において、支援を要する児童生徒の人数や様態は毎年度異なることから、必要な支援に要する補助員の人数や支援の在り方などケースに応じた支援方法の検討が必要である。			➡	引き続き、各学校のニーズに合った支援が出来るようにし、補助員の研修等を行っていく。
<b>5 学識経験者の意見</b>				
昨年度の課題であった100%の充足を達成していることから、各学校と連携して手厚い支援を続けてきたことがわかる。今後も、特別な支援を要する児童生徒への対応がクラス全体の児童生徒、学校全体への支援となるよう、より良い支援を目指していただきたい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 教育総務課
<b>1 目的</b>				
学校教育において、児童生徒一人ひとりが主体的な学習活動を通して、確かな学力を身につけ、集団による教育的機能を発揮しながら、互いに学び合い、尊重し合い、幅広い資質を培う。				
<b>2 具体的事業</b>				
施策を構成する事業			目標指標	
2「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」				
事業概要及び目標				
栗原市学校再編計画（後期計画H26-H31）において、教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけ、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという観点から、小学校では各学年2学級以上、中学校においては学校全体で9学級以上とする学校再編を推進し、適正規模の確保に努める。				
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>				
取組と成果				
<p>高清水・瀬峰地区中学校の再編については、8月に両地域で開催した意見交換会において再編に合意が得られ、10月に高清水・瀬峰地区中学校再編準備委員会を設置、平成30年3月末までに6回開催した。協議の中で校名は「栗原南中学校」に決定し、12月に教育長が中間答申を受けている。校章は素案が決定、校歌は歌詞の素案は決定し、曲の調整を行っている。また、制服は児童生徒及び保護者アンケートを実施し、デザイン等の調整を行っている。</p> <p>築館地区小学校の再編については、12月に宮野小学校父母教師会から学校再編に係る意向調査の結果「学校再編には反対」との報告を受けている。</p>				
【高清水・瀬峰地区中学校再編】				
学校名		再編準備委員会の状況		
高清水中学校 瀬峰中学校	10/5	第1回再編準備委員会（委員長等の互選、部会、校名）		
	11/22	第2回再編準備委員会（校名、校章、校歌）		
	12/14	第3回再編準備委員会（校名、校章、校歌）		
	1/29	第4回再編準備委員会（校歌、制服・運動着）		
	2/22	第5回再編準備委員会（部会の検討状況・校章）		
	3/14	第6回再編準備委員会（校章、制服等）		
【築館地区小学校再編】				
学校名		内容		
築館小学校 宮野小学校	12/22	宮野小学校父母教師会から「学校再編には反対」との報告を受ける。		
<b>評 価</b>				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>				
(1) 高清水・瀬峰地区中学校の再編は、再編準備委員会で円滑な開校ができるよう調整を図る。		➡	(1) 学校運営や制服・部活の検討を進め円滑な開校を目指す。併せて、閉校記念誌等、閉校に係る手続きを進める。	
(2) 築館地区小学校の再編は、宮野小学校父母教師会から合意を得られていない。			(2) 平成30年度も引き続き意見交換を行う。	
<b>5 学識経験者の意見</b>				
高清水・瀬峰地区中学校の再編は、児童生徒・保護者の意見も取り入れながら着実に進められている。築館地区小学校は再編の計画実施が続いており、再編開校した小学校における児童の学校生活の安定と充実のためのきめ細かい対応が必要であろう。再編開校の良い面を示すことは、宮野小学校父母教師会との意見交流にも資すると思われる。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課
<b>1 目的</b>				
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。				
<b>2 具体的事業</b>				
施策を構成する事業			目標指標	
<b>3 「幼稚園、小・中学校のホームページ開設」</b>			市ホームページへ開設した幼稚園、小・中学校の数	
<b>事業概要及び目標</b>			現状値（平成28年度）	
開かれた幼稚園、小・中学校をめざし、旬な情報を定期的に発信するため、栗原市のホームページに幼稚園、小・中学校のウェブページを開設する。			幼稚園 0園/ 9園	
			小学校 0校/13校	
			中学校 0校/ 8校	
			目標値（平成29年度）	
			幼稚園 0園/ 9園	
			小学校 12校/12校	
			中学校 8校/ 8校	
			実績値（平成29年度）	
			幼稚園 0園/ 9園	
			小学校 12校/12校	
			中学校 8校/ 8校	
			達成率 100%	
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>				
<b>取組と成果</b>				
平成30年3月20日にウェブページを公開し、平成29年度の目標を達成した。				
<b>評 価</b>				
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>				
各学校が自由に編集できる設定としたので、各学校の活用の促進と定期的な更新の徹底が必要である。			➡	活用が停滞した場合や定期的な更新について指導する。また、幼稚園のHPを早期に開設するよう努める。
<b>5 学識経験者の意見</b>				
短期間で100パーセントの開設率を達成した点は評価できる。今後も各学校がホームページの活用や定期的な更新を円滑に行えるよう支援を続けていただきたい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

### 1 目的

幼児児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

#### 4「教育研究センター事業」

目標指標

研修受講者の満足度（大変参考になった）の向上

事業概要及び目標

市立幼稚園、小・中学校の教職員の交流、研修、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、次代を担う人づくり＝「学府くりはら」の着実な実現を図る。加えて、ICTを活用した授業を進めるため、担当特任教授を配置する。

現状値（平成28年度）	59.7%
目標値（平成29年度）	70.0%
実績値（平成29年度）	59.3%
達成率	84.7%
※センター研修に限ると	
実績値（平成29年度）	70.6%
達成率	100.9%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

今年度に立ち上げた「学力向上対策プロジェクト事業」推進のため、1名増員となった特任教授が「学力向上研究指定校」7校へ何度も直接出向くことにより、学習指導支援を円滑かつ強力に進めた。

また、学力向上に向けた小学校外国語活動研修会、ICT活用研修会、いじめ・不登校解消へ向けたQ-U活用研修会の充実を図った。特に、ICT活用研修会は全小中学校で、Q-U活用研修会は4校8回の出前研修を実施し、学習指導力と生徒指導力の向上に努めた。

研修会の充実を図ったことにより、センター研修への参加者数は延べ1,503人となった。

研修名		講師	開催日	対象	参加人数 (延べ人数)	
派遣事業	授業公開・事前検討会等への支援・助言	市指導主事・市特任教授	通年	全指定校	420人	
	若手教員指導力向上のためのアドバイザー派遣	市指導主事・市特任教授	通年	幼	15人	
学力向上に向けた授業づくり研修会	小学校外国語活動研修会	県学力向上成果普及教員	9月6日	小	19人	
	ICT活用研修会①～③	県総合教育センター指導主事	7月4日、9月7日、11月16日	小・中	63人	
	ICT活用研修会出前研修①～⑫	業者（ALS1ほか）	7月～10月	小・中	405人	
いじめ・不登校等解消に向けた研修会	Q-U活用研修会 センター研修①・②	早稲田大学講師	7月31日、1月25日	小・中	46人	
	Q-U活用研修会出前研修①・② 4校実施	早稲田大学講師	7月～1月	栗駒小 志波姫小 栗原西中 瀬峰中	137人	
	道徳教育研修会	県総合教育センター指導主事	7月11日	小・中	24人	
職務別研修会	学びの土台づくりに向けた研修会	幼稚園長研修会①・②	市特任教授	4月25日、11月29日	幼	20人
		幼稚園主任研修会①・②	市特任教授	4月27日、1月18日	幼	20人
		幼稚園研究主任研修会①・②	市特任教授	5月1日、1月24日	幼	19人
		幼稚園5年経過等教員研修会	市特任教授等	9月1日	幼	3人
		新任幼稚園教諭・保育士研修会①・②	福音館書店、市特任教授等	5月23日、1月30日	保・幼	29人
	資質・指導力向上に向けた研修会	校長研修会	早稲田大学教授	6月9日	小・中	45人
		幼小中学年主任研修会①・②	市特任教授	5月17日、1月17日	幼・小・中	22人
		初任者研修①（含市転入職員）・②	文化財保護課学芸員ほか	5月11日、8月17日	小・中	40人
		幼稚園・学校補助員研修会①～④	金成支援学校教諭	5月2日、7月11日、9月8日、10月18日	幼・小・中	167人
		市費教諭等研修会	学力向上研究指定校授業者等	6月～12月	小・中	9人
					合計	1,503人

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

全小中学校児童生徒の学力向上に資する教員研修の更なる充実が必要である。また、特別の教科「道徳」と小学校5・6年の教科「外国語（英語）」の充実した研修が必要である。



指導主事と特任教授の派遣を更に積極的に行い、指定校を中心とした市内全教員の授業力向上を図る。また、道徳や小学校英語の実践的かつ具体的な研修を設定するため、指導主事が情報収集を徹底して行う。

### 5 学識経験者の意見

昨年度の課題であった特任教授の積極的な派遣に真摯に取り組んだことがわかる。また出前研修は教師たちが学校現場を離れることなく研修に参加することができる点で、有意義だと思われる。今後も他事業との連携を取りながら、研修の充実を進めていただきたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

**1 目的**  
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

**2 具体的事業**

施策を構成する事業	目標指標
<b>5 「学力向上対策プロジェクト事業」</b>	全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差（ポイント）の改善
<b>事業概要及び目標</b>	現状値（平成28年度） 平成29年度の目標値（正答率）
栗原市独自の学力向上研究指定校事業に基づく研究指定により、小・中学校における質の高い学びの実現を目指す実践研究を推進し、その成果・課題を図ることにより児童生徒の学力向上を目指す。	小学校 国語知識 ▲ 0.2 0.1 → (75)
	国語活用 ▲ 3.1 0.1 → (58)
	算数知識 ▲ 2.7 0.1 → (79)
	算数活用 ▲ 4.4 0.1 → (46)
	中学校 国語知識 ▲ 2.3 0.1 → (77)
	国語活用 ▲ 5.4 0.1 → (72)
	数学知識 ▲10.2 ▲5.0 → (60)
	数学活用 ▲ 7.2 ▲5.0 → (43)
	平成29年度の実績値（正答率） → 目標値との差
	小学校 国語知識 (75) → 0 ※平成29年度より、過度な競争をあおらないようにするため整数値で公表されることとなった。
国語活用 (55) → ▲ 3	
算数知識 (77) → ▲ 2	
算数活用 (42) → ▲ 4	
中学校 国語知識 (73) → ▲ 4	
国語活用 (69) → ▲ 3	
数学知識 (55) → ▲ 5	
数学活用 (40) → ▲ 3	
達成率 95.3%（＝栗原市正答率÷目標正答率）	

**3 平成29年度の取組と自己評価**

**取組と成果**

教育委員会指定の学力向上研究指定校7校は、授業づくりを中心とした校内研究を推進し、授業公開や学力向上研究推進協議会において他校への提案を継続して行った。加えて、大仙市教育委員会の協力を得て、大仙市内の小中学校に1週間派遣された教諭7人が秋田の探究型授業を中心に学び、所属校の教員の指導力向上や児童生徒の学力向上に寄与した。

全国学力・学習状況調査は4月中旬実施のため、この実績は平成28年度のものとも言えるが、小学校においては2年前に比べ正答率に伸びが見られる。中学校においては、数学の低い正答率が続いている。

	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
H29	0	-3	-2	-4	-4	-3	-10	-8
H28	-0.2	-3.1	-2.7	-4.4	-2.3	-5.4	-10.2	-7.2
H27	-3.2	-7.3	-2.9	-6.1	-2.8	-2.3	-6.8	-5.7

**評 価**

- B**
- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
  - B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
  - C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
  - D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

**4 平成30年度に向けた課題・今後の方針**

中学校数学の正答率が低いという傾向が続いている。特に、A問題（知識に関する問題）の正答率が全国平均に比べても高くないことから、基礎的基本的な知識・理解の向上が必要となる。

➡

教育研究センターから出された「算数・数学の学力向上に向けて」の取組を、各小中学校が着実に取り組めるような態勢をつくる。また、大仙市派遣教員が自らの実践授業により探究型授業の良さを広く伝える。

**5 学識経験者の意見**

結果の公表方法の変更、探究型授業の研究など、学力テストの結果への過度な注目を避けて授業の質の向上を図ろうとする意図が随所にみられる。小学校算数と中学校数学の実績の差異が大きいことから、児童・生徒の学びの姿からその要因を分析し、授業改善につなげることも必要ではないか。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

**1 目的**  
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

**2 具体的事業**

施策を構成する事業	目標指標
<b>6「学力向上支援事業」</b>	NRT（市独自の学力調査）の調査における標準偏差値の向上
<b>事業概要及び目標</b>	現状値（平成28年度） 小学校全体の標準偏差値：50.6 中学校全体の標準偏差値：47.3 目標値（平成29年度） 小学校全体の標準偏差値：54.0 中学校全体の標準偏差値：49.0 実績値（平成29年度） 小学校全体の標準偏差値：50.9 中学校全体の標準偏差値：47.7
保護者や児童生徒を対象として、家庭学習のポイント等を学ぶための家庭学習会の開催、小・中学校で実施する学習会への支援を行う。また、児童生徒の学力の状況を把握し、課題を解決するため、栗原市単独による標準学力テストなどを実施し、様々な方面からの学力向上策を検討・推進する。また、教職員、保護者を対象とした学力向上のための教育講演会を実施する。	達成率 95.8% 小学校全体の達成率：94.3% 中学校全体の達成率：97.3%

**3 平成29年度の実績と自己評価**

**取組と成果**  
学び支援コーディネーターを活用した「週末学習会」「夏休み学習会」「冬休み学習会」「放課後学習会」を開催し、自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上、自主的学習の習慣化を図った。NRT（全国標準学力検査）は4月下旬に実施しているため、この実績は平成28年度の成果とも言えるが、小学校においても中学校においても、ほとんどの教科で、わずかではあるが偏差値の伸びが見られる。小学校では全教科で、中学校においては市内全体の課題である中学校数学を含めた4教科で前年度よりも良い結果となっており学力向上が少しずつ進んでいる。

学年	人数	合計	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小2	451人	52.2	52.8		51.7		
小3	479人	51.3	52.1		50.6		
小4	516人	50.3	50.2	49.2	50.6	51.3	
小5	505人	49.9	50.6	49.2	50.7	49.1	
小6	487人	50.8	51.7	49.8	51.7	49.9	
小学校	2,438人	50.9	51.4	49.4	51	50.1	
中1	507人	49.1	50.4	47.9	49.5	48.6	
中2	519人	47.3	49.1	47.3	47.2	46.3	46.4
中3	543人	46.8	49.5	46	45.5	46.4	46.6
中学校	1,569人	47.7	49.7	47	47.3	47.1	46.5

**評価**

<b>B</b>	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

**4 平成30年度に向けた課題・今後の方針**

依然として中学校における学力の低下が見られる。特に数学については学年が上がるにつれて理解度が低下している。中学校段階はもちろん、小学校段階からの対策を練っていく必要がある。

➡

大学生等を活用した中学生対象の学習会の充実を図る。また、教育委員会指定の「学力向上研究指定校」が取り組んできた授業改善や家庭学習の改善等について、教員が学ぶ機会を多く設定する。

**5 学識経験者の意見**

中学校数学の学力が課題であることは理解できるが、児童生徒、教員が短期的な学力向上に縛られることのないよう、結果を焦らずに取り組んでいただきたい。特に中学校段階で学力が低下する要因について、児童生徒の生活環境や授業参加の実態を丁寧に調査し、小中連携、必要な授業改善等を行っていくことを期待したい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

### 1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

#### 7「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」

アンケート調査結果

- ①学習会が役に立ち勉強が分かるようになった
- ②自分で計画を立てて勉強することが楽しい
- ①②の児童の割合

事業概要及び目標

家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。  
また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施し、自主的学習習慣の形成を図り、学力向上を目指す。  
加えて、各学校への周知を行い参加者の増加を図る。

現状値（平成28年度）	95.9%
目標値（平成29年度）	97.0%
実績値（平成29年度）	97.3%
達成率	100.3%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

学び支援コーディネーター事業の「放課後学習会」実施校は、昨年度の2校（一迫小、花山小）から5校増加（築館小、若柳小、瀬峰小、金成小、志波姫小）し、7校で実施した。学習会に参加した児童数は延べ12,729人となった。  
それぞれの学習会の参加者は、下記の表のとおりである。

事業名	学府くりはら塾①	学府くりはら塾②
実施期間	8/16～8/19	12/25～12/27
場所	教育研究センター	花山少年自然の家
対象者	中1～3年	中3年
参加者	95人	52人（高校生136人）
指導者	60人	24人

事業名	放課後学習会	週末学習会②	夏休み学習会	冬休み学習会	冬休み学習会
実施期間	5月～3月	6月～3月（計6回）	8/8～8/10	12/26～12/28	12/25～12/27
場所	市内小学校7校	栗原文化会館、栗原市教育研究センター	栗原文化会館、栗原市教育研究センター	栗原文化会館、栗原市教育研究センター	栗原文化会館、金成分庁舎
対象者	小1～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年
参加者	12,729人	276人	274人	275人	438人
指導者	500人	78人	64人	73人	53人

それぞれの学習会等に参加した児童生徒は、自らが目標を設定し自主学習に取り組んでいた。参加した児童生徒からは「また来年も参加したい」等、前向きな感想が寄せられた。

**A**

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

学び支援コーディネーター等配置事業において、各学校の活用度に差がある。



事業内容の十分な説明とともに、各学校に参加についての周知を行い、参加者の増加を図る。

### 5 学識経験者の意見

「放課後学習会」実施校が昨年度より増加した点は、周知徹底の成果とも言える。しかし、各学校の活用度の差が周知不足によるものであるのか、さらなる各学校の児童生徒の状況把握や、参加者の感想等を丁寧に把握・分析し、活用しやすい事業内容にしていく工夫も必要ではないか。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

### 1 目的

社会の情報化が進展していく中で、児童生徒が情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な情報活用能力を身に付けさせ、主体的に活用していく力を備えることが必要である。

そのため、基礎的な情報活用能力を身に付けるため、小・中学校にICT環境を整備し児童生徒の情報教育を推進するとともに、学習意欲の向上を図る。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

#### 8「学校ICT環境推進事業」

※「ICT」とは、コンピューターやインターネットなどの情報通信技術

小・中学校ICT活用の教科数

現状値（平成28年度）  
 小学校 ー 教科/校  
 中学校 2.13教科/校  
 目標値（平成29年度）  
 小学校 3.00教科/校  
 中学校 3.00教科/校  
 実績値（平成29年度）  
 小学校 7.42教科/校  
 中学校 7.63教科/校  
 達成率 250%

事業概要及び目標

個人の基礎的な情報活用能力を身に付け、情報化社会に主体的に対応していく力を備えるとともに、児童生徒の「学習意欲の向上」と「学力の向上」のため、ICT環境を活用する。

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

- 平成29年度ICT活用研修会（栗原市教育研究センター事業）
  - 第1回（7月4日実施）：校内でICT活用を推進するための担当者の役割についての研修
  - 第2回（9月7日実施）：ICTを活用した授業づくりについての研修
  - 第3回（11月16日実施）：ICTを活用した授業について、全小中学校ICT担当者等による実践発表
- 第3回研修会における実践発表から、各校においては様々なICT機器の有効活用を行い、学習意欲と学力の向上につなげていることが分かった。
  - ・タブレットで二つの動画を比較し、違いに気付かせている。
  - ・タブレットをフラッシュカードとして活用し、授業開始時のウォーミングアップに生かしている。
  - ・鉄棒やハードル走の指導において、ペアで撮影させ、話し合わせて技術の向上に結び付けている。
  - ・班での話し合いの結果や実験結果を写真に保存し、全体で情報や考察結果等を共有させている。

各小中学校においてICTを活用している教科

学校名	使用教科	学校名	使用教科
築館小	国・社・算・理・家	志波姫小	国・社・算・理・生・音・図・家・体
宮野小	国・社・算・理・図・家・体	花山小	国・社・算・理・家・体
若柳小	国・社・算・理・生・音・図・家・体	築館中	国・社・数・理・音・美・保・技・英
栗駒小	国・社・算・理・体	若柳中	国・社・数・理・音・美・保・技・英
栗駒南小	国・社・算・理・生・図・体	栗駒中	国・社・数・理・美・保・技・英
高清水小	国・社・算・理・図・家・体	高清水中	国・社・保・技・英
一迫小	国・社・算・理・生・音・図・家・体	栗原西中	国・社・数・理・音・保・技・英
瀬峰小	国・社・算・理・生・音・図・家・体	瀬峰中	国・社・数・理・音・保・技・英
鶯沢小	国・社・算・理・生・音・図・家・体	金成中	理・音・美・技・英
金成小	国・社・算・理・図・家・体	志波姫中	国・社・数・理・音・美・保・技・英

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

平成29年度は全小中学校で出前研修を行ったが、タブレットについて各々の意識や操作技術に違いがあり、ニーズが多様であることが明らかになった。その多様性にできるだけ応える必要がある。



出前研修は2年目となるため、教員のニーズに応える内容とする。具体的には、初心者向けとそれ以外の教員向けの研修に分け、内容も実際の授業で活用しやすいものに特化して行う。

### 5 学識経験者の意見

タブレットの活用に向けて、多様なニーズの把握と対応が真摯に行われていることがわかる。今後も、タブレット活用自体が目的とならないよう、タブレットの使用が児童生徒の学習の質を高めているかどうかの検証を行いながら、活用の支援を進めていただきたい。



施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																							
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																							
<b>1 目的</b>																											
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																											
<b>2 具体的事業</b>																											
施策を構成する事業			目標指標																								
<b>9「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」</b>			中学生の英語検定の合格率 (5級から準2級)																								
<b>事業概要及び目標</b>			現状値 (平成28年度) 58.3%																								
小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、ALTを活用して、小学校外国語活動の充実を図る。また、宮城教育大学の留学生との交流事業や小学校外国語活動に関する研修会の開催を実施する。			目標値 (平成29年度) 75.0%																								
JETプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。併せて、学校のクラブ設置を積極的に働きかける。			実績値 (平成29年度) 73.1%																								
(注1) JETプログラム…国が行っている語学指導等を行う外国青年招致事業			達成率 97.4%																								
(注2) ALT…外国語指導助手 (英語や英語活動の授業で日本人教師を補助する外国人教師)																											
(注3) ノンJET…国が行っているJETプログラム事業以外の事業で、ここでは民間への業務委託のこと																											
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>																											
<b>取組と成果</b>																											
<p>小学校外国語活動については、ノンJETのALT4人、JETのALT3人を12校に配置している。3、4年生は15時間、5、6年生は35時間外国語活動を実施しているが、教育課程特例校の金成小学校は、独自の教科「国際キャリア科」を実施しており、1年生から外国語に触れる機会をつくっている。</p> <p>夏季休業中に市内小学生を対象に「英語でチャレンジ」「英語でキャンプ」を実施しているが、「英語でキャンプ」の参加者が13人と減少しており、参加者を増やす手立てが必要である。</p> <p>宮城教育大留学生との交流事業を2小学校で実施した。英語圏以外のALTと接することができ、貴重な学習の機会となった。</p>																											
<b>小学校英語活動</b>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>会場</th> <th>対象・学年</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語でチャレンジ</td> <td>8月2日(火)</td> <td>この花さくや姫プラザ</td> <td>3～5年</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>英語でキャンプ</td> <td>8月3日(水)～4日(木)</td> <td>国立花山青少年自然の家</td> <td>5・6年</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">宮城教育大留学生との交流事業</td> <td rowspan="2">2月27日(火)</td> <td>一迫小学校</td> <td>3・6年</td> <td>97人</td> </tr> <tr> <td>花山小学校</td> <td>全学年</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数	英語でチャレンジ	8月2日(火)	この花さくや姫プラザ	3～5年	40人	英語でキャンプ	8月3日(水)～4日(木)	国立花山青少年自然の家	5・6年	13人	宮城教育大留学生との交流事業	2月27日(火)	一迫小学校	3・6年	97人	花山小学校	全学年	26人
事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数																							
英語でチャレンジ	8月2日(火)	この花さくや姫プラザ	3～5年	40人																							
英語でキャンプ	8月3日(水)～4日(木)	国立花山青少年自然の家	5・6年	13人																							
宮城教育大留学生との交流事業	2月27日(火)	一迫小学校	3・6年	97人																							
		花山小学校	全学年	26人																							
<b>ALT配置状況</b>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> </tr> <tr> <th>校数</th> <th>学校名</th> <th>校数</th> <th>学校名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JET</td> <td>3校</td> <td>高清水、瀬峰、志波姫</td> <td>8校</td> <td>築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫</td> </tr> <tr> <td>ノンJET</td> <td>9校</td> <td>築館、宮野、若柳、栗駒、栗駒南、一迫、金成、鶯沢、花山</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>						小学校		中学校		校数	学校名	校数	学校名	JET	3校	高清水、瀬峰、志波姫	8校	築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫	ノンJET	9校	築館、宮野、若柳、栗駒、栗駒南、一迫、金成、鶯沢、花山	—	—				
	小学校		中学校																								
	校数	学校名	校数	学校名																							
JET	3校	高清水、瀬峰、志波姫	8校	築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫																							
ノンJET	9校	築館、宮野、若柳、栗駒、栗駒南、一迫、金成、鶯沢、花山	—	—																							
<b>評 価</b>																											
<b>B</b>	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)</p> <p>C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)</p> <p>D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)</p>																										
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>																											
<p>次期学習指導要領の改訂に向けて、小学校の外国語活動の授業時数が増加することから、小・中の連携を意識した授業づくりを行い、指導力の向上を図っていく。</p>			➡	<p>小学校の中学年から英語に慣れ親しむ活動を教育課程に位置づける。また、小・中合同の研修会を実施する。</p>																							
<b>5 学識経験者の意見</b>																											
<p>「英語でチャレンジ」の1回実施、「英語でキャンプ」の参加者の減少と、昨年度より英語を使う場の設定と利用者数が減少している。拡張が難しい要因を明確にし、次年度の計画に活かすことが期待される。また目標指標をより本事業の内容に沿ったものにしていく必要があるのではないか。</p>																											

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進																														
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進		担当課 学校教育課																														
<b>1 目的</b>																																		
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校を目指し、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。																																		
<b>2 具体的事業</b>																																		
施策を構成する事業			目標指標																															
10「地域と連携した避難訓練の推進」			地域と連携し避難訓練等の実施した幼稚園の数																															
事業概要及び目標			現状値（平成28年度） 5園/9園実施 目標値（平成29年度） 9園/9園実施 実績値（平成29年度） 9園/9園実施 達成率 100%																															
幼児の安全確保に向けた危機管理体制の確立を図り、適切な訓練を実施するために、保護者や地域などの関係機関とも連携を図りながら、防災担当者を中心として防災教育に取り組む。																																		
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>																																		
取組と成果																																		
市内全ての幼稚園で、警察署や消防署等の関係機関と連携して避難訓練を実施するとともに、絵本や紙芝居などを活用した防災教育や、地域と連携した合同避難訓練に取り組んだ。 幼児の安全対策は重要であることから、今後も地域との連携を図った防災教育・訓練を継続することが大切である。																																		
【地域と連携した避難訓練を実施した幼稚園】																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>幼稚園名</th> <th>期日</th> <th>訓練内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>築館幼稚園</td> <td>8月8日</td> <td>保護者参加による引き渡し訓練</td> </tr> <tr> <td>栗駒幼稚園</td> <td>6月9日</td> <td>保護者参加による引き渡し訓練</td> </tr> <tr> <td>高清水幼稚園</td> <td>5月13日</td> <td>保護者参加による引き渡し訓練</td> </tr> <tr> <td>一迫幼稚園</td> <td>10月19日</td> <td>小学校と合同による避難訓練</td> </tr> <tr> <td>瀬峰幼稚園</td> <td>7月14日</td> <td>保護者参加による引き渡し訓練</td> </tr> <tr> <td>鶯沢幼稚園</td> <td>6月30日</td> <td>消防署員の指導による避難訓練</td> </tr> <tr> <td>金成幼稚園</td> <td>7月14日</td> <td>消防署員の指導による消火訓練、煙道訓練</td> </tr> <tr> <td>志波姫幼稚園</td> <td>6月16日</td> <td>保護者参加による引き渡し訓練（小学校と合同）</td> </tr> <tr> <td>花山幼稚園</td> <td>7月14日</td> <td>警察署員の指導による不審者対応訓練</td> </tr> </tbody> </table>					幼稚園名	期日	訓練内容	築館幼稚園	8月8日	保護者参加による引き渡し訓練	栗駒幼稚園	6月9日	保護者参加による引き渡し訓練	高清水幼稚園	5月13日	保護者参加による引き渡し訓練	一迫幼稚園	10月19日	小学校と合同による避難訓練	瀬峰幼稚園	7月14日	保護者参加による引き渡し訓練	鶯沢幼稚園	6月30日	消防署員の指導による避難訓練	金成幼稚園	7月14日	消防署員の指導による消火訓練、煙道訓練	志波姫幼稚園	6月16日	保護者参加による引き渡し訓練（小学校と合同）	花山幼稚園	7月14日	警察署員の指導による不審者対応訓練
幼稚園名	期日	訓練内容																																
築館幼稚園	8月8日	保護者参加による引き渡し訓練																																
栗駒幼稚園	6月9日	保護者参加による引き渡し訓練																																
高清水幼稚園	5月13日	保護者参加による引き渡し訓練																																
一迫幼稚園	10月19日	小学校と合同による避難訓練																																
瀬峰幼稚園	7月14日	保護者参加による引き渡し訓練																																
鶯沢幼稚園	6月30日	消防署員の指導による避難訓練																																
金成幼稚園	7月14日	消防署員の指導による消火訓練、煙道訓練																																
志波姫幼稚園	6月16日	保護者参加による引き渡し訓練（小学校と合同）																																
花山幼稚園	7月14日	警察署員の指導による不審者対応訓練																																
評 価																																		
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																	
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>																																		
幼児等の安全確保に向けて関係機関と連携しながら、更なる防災教育や防災訓練を充実していく必要がある。		➡	消防署や警察署等、関係機関との綿密な連携を図り、幼児の安全確保を図るための、避難訓練、防災教育の充実、危機管理体制の構築を図る。																															
<b>5 学識経験者の意見</b>																																		
すべての幼稚園で避難訓練に取り組まれたことは、重要な成果である。今後も取組を継続していくことで、関係機関との連携が充実し、さらに防災意識が高まっていくことを期待したい。																																		

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成																				
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課																				
<b>1 目的</b>																								
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。																								
<b>2 具体的事業</b>																								
施策を構成する事業			目標指標																					
11「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」			/																					
事業概要及び目標																								
いじめの防止、いじめの早期発見、いじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、栗原市いじめ防止基本方針に基づき、学校の内外を問わず、関係者が一体となりいじめ問題を克服する。																								
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>																								
取組と成果																								
<p>各学校では、児童生徒の「学校生活アンケート」の記載内容や教師による日常観察、児童生徒からの訴えから「いじめ」を把握し、適切に対応してきた。</p> <p>教育委員会においても、年2回「栗原いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係機関と連携を取りながら、いじめ防止に関する情報を共有することができた。</p> <p>また、各校の教頭及び保護者の代表の参加のもと「子どもの命を守る研修会」を実施し、子どもの命を守るための対応の在り方について共通理解を図ることができた。</p>																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">事業名</th> <th style="width: 20%;">開催日</th> <th style="width: 40%;">内容</th> <th style="width: 10%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td> <td>平成29年8月24日（木）</td> <td>栗原市内のいじめ・不登校の現状と対策について</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td> <td>平成30年2月20日（火）</td> <td>学校現場におけるいじめ問題対策の現状について</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">事業名</th> <th style="width: 20%;">開催日</th> <th style="width: 40%;">内容</th> <th style="width: 10%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子どもの命を守る研修会</td> <td>平成30年1月18日（木）</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○講師:宮城県精神保健福祉センター 水本有紀氏</li> <li>○演題:「子どもの命を守るために」</li> <li>○対象:栗原市内教頭、保護者の代表</li> <li>○子どもたちの心と命を守るための取組について</li> </ul> </td> <td>44人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	内容	参加人数	第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成29年8月24日（木）	栗原市内のいじめ・不登校の現状と対策について	18人	第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成30年2月20日（火）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について	18人	事業名	開催日	内容	参加人数	子どもの命を守る研修会	平成30年1月18日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講師:宮城県精神保健福祉センター 水本有紀氏</li> <li>○演題:「子どもの命を守るために」</li> <li>○対象:栗原市内教頭、保護者の代表</li> <li>○子どもたちの心と命を守るための取組について</li> </ul>	44人
事業名	開催日	内容	参加人数																					
第1回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成29年8月24日（木）	栗原市内のいじめ・不登校の現状と対策について	18人																					
第2回栗原市いじめ問題対策連絡協議会	平成30年2月20日（火）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について	18人																					
事業名	開催日	内容	参加人数																					
子どもの命を守る研修会	平成30年1月18日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講師:宮城県精神保健福祉センター 水本有紀氏</li> <li>○演題:「子どもの命を守るために」</li> <li>○対象:栗原市内教頭、保護者の代表</li> <li>○子どもたちの心と命を守るための取組について</li> </ul>	44人																					
<b>評 価</b>																								
<b>B</b>	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>																							
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>																								
「命を大切にする教育」の推進と、「重大事案発生時における緊急対応の手引き」の定期的な確認・見直しが必要である。		➡	「重大事案発生時における緊急対応の手引き」の定期的な確認・見直しをするとともに、「命を大切にする教育」についての指導プログラムの作成を進める。																					
<b>5 学識経験者の意見</b>																								
「取組と成果」に示されているように、いじめ防止においては教師による日常観察や児童生徒の訴えからの把握等、日々の取組が最も重要となる。また研修会に教員と保護者がともに参加することは、学校と家庭で取組の内容を共有し、連携が図られる機会となる。今後も日常的な取組と家庭との連携の充実を継続していただきたい。																								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成									
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課									
<b>1 目的</b>													
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。													
<b>2 具体的事業</b>													
施策を構成する事業			目標指標										
12「スクールソーシャルワーカー活用事業」			不登校数の出現率 (児童・生徒100人当たり) 現状値(平成28年度) 小学校 0.30% 中学校 3.52% 目標値(平成29年度) 小学校 0.30% 中学校 3.37% 実績値(平成29年度) 小学校 0.24% 中学校 3.19% 達成率 115% 小学校 125% 中学校 105%										
事業概要及び目標													
不登校傾向の児童生徒や家庭に対して、スクールソーシャルワーカーを派遣して、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携して、問題解決に向けて、その方向性を探っていく。													
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>													
取組と成果													
<p>「スクールソーシャルワーカー活用事業」については、今年度も2人のスクールソーシャルワーカーで児童生徒と家庭にかかわり、学校復帰や家庭内の問題解決に向けた取組を学校や教育相談員、関係機関と連携しながら支援を行った。</p> <p>また、関係機関との連携の中で、市内小中学校への訪問やケース会議等を通して、各校の実態と課題について把握するとともに、今後の取組について協議を行った。</p> <p>今後も学校、教育相談員、関係機関と連携を図りながら児童生徒の問題解決に向けた取組を継続する。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーの活動回数 2人：81回活動</p> <p>○不登校者の出現率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童・生徒数</th> <th>不登校者</th> <th>出現率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>2,961人</td> <td>7人 0.24%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1,630人</td> <td>52人 3.19%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※不登校の定義：30日以上休んだ生徒</p>					児童・生徒数	不登校者	出現率	小学校	2,961人	7人 0.24%	中学校	1,630人	52人 3.19%
児童・生徒数	不登校者	出現率											
小学校	2,961人	7人 0.24%											
中学校	1,630人	52人 3.19%											
評 価													
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)</p> <p>C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)</p> <p>D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)</p>												
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>													
不登校及び不登校傾向の児童生徒は、本市学校教育の課題となっている。今後も関係機関が連携した総合的な取組が必要である。			➡	目標指数からの評価はAであったが、不登校の子どもたちの学校復帰に向けて、関係機関との連携をさらに進め、児童生徒の問題行動等の解決に努めていく。									
<b>5 学識経験者の意見</b>													
不登校及び不登校傾向の児童生徒、特に中学校における不登校者が多い点について、どのような背景や理由があるのだろうか。全市で共有できる点、各学校で課題となる点を明確化し、多方面からの解決に取り組むことを期待したい。													

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成									
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進		担当課 学校教育課									
<b>1 目的</b>													
一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進を図る。 また、自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進を図る。													
<b>2 具体的事業</b>													
施策を構成する事業			目標指標										
13「志教育支援事業（注1）」 （注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育			/										
事業概要及び目標 社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取組が必要かなどについて、自己を見つめ考えさせる志教育の充実と推進を図る。													
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>													
取組と成果													
<p>県の「志教育支援事業」の指定を受け、栗駒中学校区における児童・生徒に、次の4つの取組について支援を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>栗駒中学校区の志教育全体構想図、「栗駒の12年間教育」で身に付けさせたい力の関連表、「願いを持ち 励まし合い 可能性を追求する」姿の関連表の作成</li> <li>幼・小・中・高や地域、「伝統文化・人・環境」との関連を明確にした年間指導計画の整備</li> <li>事業のねらい、志教育の視点、夢を育み志に高める手立て等を明確にした志教育の実践</li> <li>小・中・高等学校の児童生徒が一堂に会し、児童生徒交流発表会の実施</li> </ol>													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 日</th> <th>会議・発表会</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月26日（金） ～ 1月26日（金）</td> <td>第1回～8回 連絡協議会</td> <td>・実施計画、連携内容等の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>12月21日（木）</td> <td>児童生徒交流発表会 （みちのく伝創館）</td> <td>講演 「ふるさと栗原を学ぶジオパーク学習の取組」 実践発表 ・「白鷺太鼓・文字甚句」 ・「栗原を知るジオパーク学習（伝統・人・環境）」 ・「地域から学ぶ ～地域めぐり～」 ・「栗駒ドリームカンパニー」 ・「栗っこティーチャー体験」</td> </tr> </tbody> </table>					期 日	会議・発表会	内 容	5月26日（金） ～ 1月26日（金）	第1回～8回 連絡協議会	・実施計画、連携内容等の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成	12月21日（木）	児童生徒交流発表会 （みちのく伝創館）	講演 「ふるさと栗原を学ぶジオパーク学習の取組」 実践発表 ・「白鷺太鼓・文字甚句」 ・「栗原を知るジオパーク学習（伝統・人・環境）」 ・「地域から学ぶ ～地域めぐり～」 ・「栗駒ドリームカンパニー」 ・「栗っこティーチャー体験」
期 日	会議・発表会	内 容											
5月26日（金） ～ 1月26日（金）	第1回～8回 連絡協議会	・実施計画、連携内容等の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成											
12月21日（木）	児童生徒交流発表会 （みちのく伝創館）	講演 「ふるさと栗原を学ぶジオパーク学習の取組」 実践発表 ・「白鷺太鼓・文字甚句」 ・「栗原を知るジオパーク学習（伝統・人・環境）」 ・「地域から学ぶ ～地域めぐり～」 ・「栗駒ドリームカンパニー」 ・「栗っこティーチャー体験」											
<b>評 価</b>													
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）												
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）												
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）												
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）												
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>													
市内の各小・中学校とも「志教育全体計画」「指導計画」が整備され、年間を通じて実践している。今後は、小学校の取組が中学校の取組へ関連・発展していくように改善することが必要である。			➡	今年度の指定校の成果である「栗駒の12年間教育」で身に付けさせたい力の関連表を市内各校に周知し、小・中・（高）を見通した志教育の推進を意識させていく。									
<b>5 学識経験者の意見</b>													
実践発表からは、地域に学びがいのある豊かな伝統と文化が息づいていることが感じられる。児童生徒が長期的に地域から学び、自己を見つめていけるよう、さらなる小中学校の連携強化を期待したい。													

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進		担当課 学校教育課

### 1 目的

一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進を図る。  
また、豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰をめざし、基礎学力を身に付けるための支援を行う。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

#### 14「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」

##### 事業概要及び目標

学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができる体制を整備する。  
また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置し、さらに、県よりみやぎ心のケア支援員1人(週1回)の派遣を受け、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障するとともに登校に向けての支援を行う。

### 3 平成29年度の取組と自己評価

#### 取組と成果

教育相談員や在学青少年指導員の活動を通して、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握するとともに、スクールソーシャルワーカー等と連携するなど適切な支援体制が整った。  
本事業のねらいは、一人でも多くの児童生徒が学校復帰を果たすことである。学校復帰に係る過程は様々であり、「けやき教室」へ入所することもその一過程である。入所にあたっては、児童生徒一人一人の状況について、関係機関等との連絡・連携を密にしながらか適切に把握した上で、入所することが当該児童生徒にとって学校復帰につながる効果的な一助となり得るかを十分に吟味・検討しながら進める必要がある。単なる入所者の多寡が重要なのではなく、適切に入所の働きかけがなされているかが重要であるとの考えのもとに利用の働きかけを進めた。  
けやき教室に通所している児童生徒に対しては、在学青少年指導員と補助員が一人一人の状況に応じて個別の指導を行った。なお、所属校と連絡を密にして指導を継続した結果、通所した中学3年生全員が希望する高校への進学を果たした。

事業名	対応日時及び時間	対応状況					
教育相談	毎週火・水・金 8:30~17:15	来庁相談：2件、電話相談：11件、学校訪問相談：29件、その他：31件※					
けやき教室	毎週月～金、 8:30~15:30	開所日数	89日				
		通所人数	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
		正式通所	0人	0人	4人	3人	7人
		体験通所	0人	3人	6人	2人	11人
		合計	0人	3人	10人	5人	18人

※ その他については、ケース会議、けやき教室に係る打合せ

### 評価

**B**

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

けやき教室は学校復帰の一過程なので、在籍校と本人のつながりが途切れないようにけやき教室での様子を学校へ伝えることと、学校から本人への働きかけを継続することが必要である。



けやき教室での学習や生活の様子をこまめに在籍校へ伝え、チャレンジデーで所属校に登校する際、本人の負担感を軽減するよう受け入れ態勢の整備を学校に働きかける。

### 5 学識経験者の意見

昨年度に引き続き、児童生徒の実態把握と個に応じた学校復帰支援が行われていることが窺われる。今後の方針にもあるように、学校復帰にあたっては、「本人の負担感」が軽減されるような、帰りたい学校であることが重要となるだろう。今後も多方面からの学校復帰支援をお願いしたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの心身の健康と体力の向上
	具体的施策	健やかな身体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課

### 1 目的

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。

### 2 具体的事業

#### 施策を構成する事業

#### 15「全国体力・運動能力調査の結果分析」

#### 事業概要及び目標

毎年、全ての小中学校で実施されている「全国体力・運動能力調査」の結果を累積し、継続してその変容を見ながら分析し、成果と課題を明確にした上で、対策を講じていくことによって、児童生徒の体力・運動能力の向上を図るとともに、正しい食習慣や生活習慣を身につけ、生涯にわたって自らの健康を増進しようとする態度を養っていく。

#### 目標指標

全国体力・運動能力調査の総合評価値比較  
 全国の総合評価値（平成28年度）  
 小学生 男53.93 女55.54  
 中学生 男42.00 女49.41  
 現状値（平成28年度）  
 小学生 男52.69 女56.16  
 中学生 男42.52 女49.33  
 目標値（平成29年度）  
 小学生 男55.00 女57.00  
 中学生 男43.00 女50.00  
 ※目標値は全国平均を大きく上回る  
 実績値（平成29年度）  
 小学生 男53.75 女55.81  
 中学生 男40.08 女49.81  
 達成率  
 小学生 男97.7% 女97.9%  
 中学生 男93.2% 女99.6%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

#### 取組と成果

昨年の課題を踏まえ、小学校では、学習カードを工夫するなど、目標を設定させることで、意欲的に体力づくりに取り組ませるようにした。  
 平成29年度の小学5年生と中学2年生の実技についての調査結果の全国との比較の結果、小・中とも「持久力」、「走力」に課題がみられた。中学2年生女子が全国平均並の数値だったが、中学2年男子は、目標値を7%下回った。

#### 「全国体力・運動能力調査」の結果（全国との比較）

##### 1 小学校5年生の結果より

種目等	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(回)	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ハンドボール投げ(m)	総合評価値
	(筋力)	(筋持久力)	(柔軟性)	(敏捷性)	(全身持久力)	(全身持久力)	(走力)	(跳躍力)	(投力)	
29年度男子	17.08	19.84	34.12	41.31	49.71	9.54	151.97	22.86	53.75	
29年度女子	16.91	18.40	38.21	40.24	40.29	9.70	146.98	14.12	55.81	
男子全国平均	16.51	19.92	33.15	41.95	52.24	9.37	151.71	22.53	54.16	
女子全国平均	16.12	18.81	37.43	40.06	41.62	9.6	145.47	13.94	55.72	

##### 2 中学校2年生の結果より

種目等	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横跳び(回)	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅跳び(cm)	ハンドボール投げ(m)	総合評価値
	(筋力)	(筋持久力)	(柔軟性)	(敏捷性)	(全身持久力)	(全身持久力)	(走力)	(跳躍力)	(投力)	
29年度男子	29.92	26.57	42.88	51.50	395.52	82.91	8.17	189.59	19.20	40.08
29年度女子	24.77	23.87	45.16	47.12	291.19	58.40	8.89	166.52	12.31	49.61
男子全国平均	28.89	27.45	43.2	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56	42.11
女子全国平均	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.8	168.57	12.96	49.97

### 評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

小・中とも「走力」「持久力」に課題があるという結果だった。本市の課題を意識した授業実践が必要である



各学校において体力の面の課題を明確にした上で、楽しさを味わえる体育の授業づくりを行い、自ら運動に親しむ児童生徒を育成する。

### 5 学識経験者の意見

今後とも楽しさを味わえる体育の授業づくり、日常的な体力づくりの工夫に取り組んでいただきたい。小学生女子には達成率の低下も見られるが、体力調査の結果にすぐに表れない成果として、体育の授業に対する児童生徒の意見や体力づくりへの意欲を見ていくことも有用ではないか。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供	担当課	社会教育課

### 1 目的

幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、子育てについての学習や親同士、保護者同士の情報交換、親子の交流やふれあいを通じて子どものしつけや子育てについて考える機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

#### 16「家庭教育学級」

事業概要及び目標

幼児、児童及び生徒の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において行う家庭教育学級へ講師派遣の支援を行う。

これまで、未開催の学校等での実施に向け、継続的に周知する。

目標指標

参加人数	
現状値（平成28年度）	2,285人
目標値（平成29年度）	2,500人
実績値（平成29年度）	3,912人
達成率	156.4%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

年度当初に、全ての保育所、幼稚園、小学校、中学校に事業の周知を行い、保護者を対象に家庭教育学級を実施した。学校等に対し課題やテーマに適した講師派遣の支援を行い、継続した事業の実施につながった。

また、継続した周知を行った結果、事業の認知度が高まり、開催回数、参加者数とも増加し、特に未実施の施設のうち1施設で新たに事業を実施した。

家庭教育学級実績

		平成27年度			平成28年度			平成29年度		
開催回数	保育所	4回	17回	保育所	2回	18回	保育所	4回	26回	
	幼稚園	7回		幼稚園	6回		幼稚園	7回		
	小学校	6回		小学校	9回		小学校	14回		
	中学校	—		中学校	1回		中学校	1回		
参加者数	保育所	462人	2,376人	保育所	124人	2,285人	保育所	223人	3,912人	
	幼稚園	1,107人		幼稚園	638人		幼稚園	1,057人		
	小学校	807人		小学校	1,332人		小学校	2,445人		
	中学校	—		中学校	191人		中学校	187人		
助成金額	115,000 円			199,000 円			265,000 円			

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

各学校等において様々な課題に対して講師を依頼し家庭教育学級を実施しているが、学校間において講師等の情報共有を行い事業実施に活用できる仕組みが必要となってきた。



各学校の講師依頼実績を集約し、リスト化して各学校等へ情報提供を行い、事業の実施を支援する。

### 5 学識経験者の意見

参加者が大きく増え、これまで未実施の施設で新たに実施されるなど、大きな成果があった。今後も引き続き、充実した事業が展開されるよう期待する。



施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

### 1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

17「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」

ジュニア・リーダー登録人数

事業概要及び目標

地域少年集団の育成と活動の支援体制を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を行う。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動、社会教育事業等への参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。

現状値（平成28年度）	58人
目標値（平成29年度）	60人
実績値（平成29年度）	48人
達成率	80.0%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

各種研修や子ども会等への派遣を行うため、ジュニア・リーダーの育成を行った。市子ども会育成連合会と共催し、毎月ジュニア・リーダー連絡協議会を開催しており、事業の企画立案などを、ジュニア・リーダーが自ら行うよう指導し、人材育成と技術向上に努めた。

研修の成果を発揮する場として、小学生との異年齢交流を目的とした「ジュニア・リーダーフェスティバル」や「くりこまハロウィンパーティー」などを実施した。

ジュニアリーダー地区別人数

(単位:人)

	築館	志波姫	若柳	金成	栗駒	鶯沢	瀬峰	高清水	一迫	花山	計
上級	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
中級	3	0	0	1	6	2	4	0	3	0	19
初級	4	0	0	0	9	0	2	0	1	0	16
有級者計	7	0	0	1	15	3	7	0	4	0	37
未取得者	8	0	0	1	2	0	0	0	0	0	11
計	15	0	0	2	17	3	7	0	4	0	48

ジュニア・リーダー関連事業

事業名	期日	参加者数	担当部署
ジュニア・リーダー連絡協議会	毎月1回程度	JL延べ20人	社会教育課
せみね合宿通学	9月26日(火)～29日(金)	13人(JL3人)	瀬峰・高清水教育センター
ジュニア・リーダー初級研修会	10月8日(土)～9日(日)	JL12人	社会教育課
ジュニア・リーダーフェスティバル	10月29日(日)	54人(JL15人)	社会教育課
くりこまハロウィンパーティー	11月18日(土)	36人(JL8人)	栗駒・鶯沢教育センター
かんなりクリスマス子ども祭り	12月3日(日)	126人(JL1人)	若柳・金成教育センター
せみねっこ・たかしみずっこ ふれあいクリスマスパーティー	12月10日(日)	90人(JL8人)	瀬峰・高清水教育センター
築館ジュニアリーダー人形劇まつり	12月23日(土)	81人(JL11人)	築館・志波姫教育センター
合計		382人	

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

ジュニア・リーダーの登録人数が減少しており、特にジュニア・リーダーが不在の地区ではその存在についても認知度が低くなってきている。教育委員会、市子ども会育成連合会、ジュニア・リーダーが連携しての募集活動が必要となっている。



ジュニア・リーダーの活用方法について、学校や子ども会への具体的な周知方法を検討する。また、ジュニア・リーダーのいない地区への周知方法を検討するとともに、ブロック化も検討する。

### 5 学識経験者の意見

不在地区における認知度を高めるための方策についての工夫を期待する。関連事業の参加者数は増加したものが多く、この傾向が続くとよいと思われる。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

### 1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

### 2 具体的事業

#### 施策を構成する事業

#### 18「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」

#### 事業概要及び目標

青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体と共催による事業を実施する。

また、各種事業に、ジュニア・リーダー、シニアリーダーの活用を進め、異年齢集団による交流を図ることとし、将来の青少年教育の指導者育成の一翼を担う。

#### 目標指標

#### 参加人数

現状値（平成28年度）	1,078人
目標値（平成29年度）	1,100人
実績値（平成29年度）	1,356人
達成率	123.3%

※今年度より全ての実施事業の参加者数を目標指数とする。

### 3 平成29年度の取組と自己評価

#### 取組と成果

様々な遊びや体験活動、人との関わりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養い、成長過程での情操教育の一環として、教育センター等で関係団体と連携し青少年を対象とした事業を開催した。

また、ジュニア・リーダーを活用できる事業については、事業運営にジュニア・リーダーを活用し、異年齢集団による交流を図った。シニアリーダーはジュニア・リーダーの自主事業である「人形劇まつり」に参加した。

事業名	期日・期間	対象	参加人数(人)	連携団体
少年体験教室事業(まなびっこ) ※	7月～2月(5回)	築館・志波姫地区小学生	37	築館・志波姫教育センター、若柳・金成教育センター、瀬峰・高清水教育センターの連携事業
少年体験教室事業(わんぱく塾)	7月～2月(5回)	若柳・金成地区小学生	125	
第38回少年の主張栗原大会	7月12日(水)	中学生	各校代表(聴講:400人)	青少年のための栗原市民会議
あきる野市・栗原市友好親善交流事業	8/3(水)～8/5(金)	生徒会交流:市内中学生 部活交流:若柳中(野球部員)	栗原市 38 あきる野市 59	市内中学校
かんなりクリスマス子ども祭り	12月	児童、保護者、一般市民	126	金成地区子ども会育成会
凧あげ大会	2月	高清水、瀬峰地区市民(親子)	83	青少年のための栗原市民会議高清水地区会
図書館でのおはなし会	毎週土曜日	幼児、小学生	646	読み聞かせボランティア「ひなたぼっこ」
子ども陶芸教室	5月～9月(5回)	小学生以上	45	栗駒・鶯沢教育センター
作って飛ばそう!ペットボトルロケット	7月27日(水)	一迫地区小学生	16	青少年のための栗原市民会議一迫地区会
カプトムシ相撲大会・七夕飾り作成	8月13日(土)	小学生	0	青少年のための栗原市民会議高清水地区会(雨天中止)
せみね合宿通学 ※	9月27日(火)～9月30日(金)	瀬峰地区小学4年～6年生	13	せみね合宿通学実行委員会
2017栗駒子どもまつり	11月19日(土)	市内小学生等	100	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会
2017いちばさま子どもまつり ※	12月18日(日)	一迫地区小学生	60	一迫地区子ども会育成親の会連合会
計			1,356	

※はジュニア・リーダーが運営に関わった事業

### 評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

青少年の健全な成長を促すため、多様な体験の場を提供するとともに、将来の青少年教育を担う指導者を育成していく必要がある。



各種団体と連携し、より多様な体験や遊びの場を提供できるよう努める。新たな講師の発掘など青少年のニーズに応えられるよう取り組んでいく。

### 5 学識経験者の意見

多くの事業で参加者が増えたことは喜ばしい。一層の充実を期待したい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

### 1 目的

小学校に就学している児童が、その保護者の就労等により家庭にいない児童を対象に、授業終了後、校舎等の施設を利用して、適切な遊び及び生活の場を与えて、放課後児童の健全な育成を図る。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

#### 19「放課後児童クラブ」

事業概要及び目標

小学校1年生から6年生までの児童を対象に、市内10地区12ヶ所に開設し、運営する。今年度より土曜日も開設する。

目標指標

承諾率

現状値 (平成28年度)	100.0%
目標値 (平成29年度)	100.0%
実績値 (平成29年度)	100.0%
達成率	100.0%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

小学1年生から6年生までの児童を対象に、市内10地区12ヶ所に開設し、栗原市社会福祉協議会へ運営を委託し放課後等における生活の場、遊びの場を提供した。平成29年度から土曜日も開設した。

設備修繕等については、優先順位を考慮し対応した。運営については、各施設を定期訪問するとともに受託者と月1回程度情報交換を行い改善に努めた。

○放課後児童クラブ入所者数

(単位:人)

放課後児童クラブ名	設置場所	定員	申請者数 ①	申請 取下 げ数 ②	実申請 者数 ③=①-②	承諾数 ④	うち土 曜日も 利用す る児童 数
築館	旧築館幼稚園	198	165	6	159	159	26
宮野	宮野小学校内	58	48	1	47	47	3
若柳	若柳小学校内	136	150	7	143	143	13
栗駒	旧岩ヶ崎幼稚園	151	71	4	67	67	5
栗駒南	旧尾松幼稚園	106	51	1	50	50	5
高清水	高清水小学校内	82	53	0	53	53	18
一迫	一迫小学校内	136	118	3	115	115	12
瀬峰	瀬峰小学校内	38	26	0	26	26	2
鶯沢	鶯沢老人福祉センター内	40	45	5	40	40	2
金成	旧金成小学校内	119	73	1	72	72	4
志波姫	志波姫小学校内	148	135	3	132	132	6
花山	草木コミュニティセンター内	38	12	0	12	12	0
計		1,250	947	31	916	916	96

申請者数①	947人
申請取下げ数②	31人
実申請者数 ③=①-②	916人
承諾者数④	916人
承諾率 ④÷③	100.0%

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

利用希望者の受け入れはできているものの、定員数に近い利用があり、活動場所が手狭になっている放課後児童クラブもある。また、修繕等が必要な放課後児童クラブもあるため、環境の整備が必要である。



全施設に共通している課題と施設ごとの課題とに分け把握するとともに、取り組むべき課題の優先順位を受託者と共通認識しながら、改善に努める。

### 5 学識経験者の意見

土曜日の開設も始まり、安定した実施状況となっている。環境整備について、必要な修繕等が順次行われるよう期待したい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

### 1 目的

市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

20「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」	目標指標 参加人数
事業概要及び目標	現状値（平成28年度） 1,376人 目標値（平成29年度） 1,500人 実績値（平成29年度） 1,475人 達成率 98.3%
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。	

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センターごとに実施した。  
年齢や地域、抱える問題や価値観などに関する事業を実施したことにより、市民が生涯にわたり学習を続けていく機会となった。

事業の種類	事業名	期日・期間	対象	延べ参加人数(人)	担当している教育センター
シニアセミナー (60歳以上)	高齢講座「シニアセミナー」	6月～12月(4回)	築館・志波姫地区	57	築館・志波姫
	リフレッシュカレッジ(※)	6月～11月(3回)	瀬峰・高清水地区	36	瀬峰・高清水
	花山寿康大学	6月～2月	花山地区	36	一迫・花山
	健康のつどい「健康寿命」伸ばそう	悪天候のため未実施	栗駒・鶯沢地区	0	栗駒・鶯沢
レディースカレッジ	松葉大学(※)	5月～3月(8回)	志波姫地区	127	築館・志波姫
	女性講座「レディースカレッジ」	6月～3月(4回)	築館・志波姫地区	40	築館・志波姫
市民セミナー	女性教室	8月～2月	若柳・金成地区	86	若柳・金成
	いちごもぎ取りノルディックウォーキング	6月17日	栗駒・鶯沢地区の親子・成人	13	栗駒・鶯沢
	消しゴムはんこ	11月～12月	栗駒・鶯沢地区の小学生	33	栗駒・鶯沢
	神楽教室(※)	7月～2月	栗駒・鶯沢地区の一般・子供	292	栗駒・鶯沢
	園芸講座	6月～2月	一迫・花山地区	51	一迫・花山
	手芸講座	7月～2月	一迫・花山地区	67	一迫・花山
	陶芸教室	4月～10月	栗駒・鶯沢地区	302	栗駒・鶯沢
	ビリヤード教室	11月～12月	一迫・花山地区	12	一迫・花山
	こども陶芸教室(※)	5月～9月 5回	栗駒・鶯沢地区の小学生	45	栗駒・鶯沢
	心の安らぎ写経講座(※)	4月～3月	瀬峰・高清水地区の市民	114	瀬峰・高清水
	楽しい英会話教室	4月～3月	瀬峰・高清水地区	117	瀬峰・高清水
	市民セミナー	6月～2月	一迫・花山地区	47	一迫・花山
	合計				1,475

※は、講師が65歳以上であった事業

### 評価

**B**

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

事業は各地区教育センターとも、定着感があり、参加者も固定化しているため、より多くの市民が参加できる仕組みづくりが必要である。



各事業参加者等の声を聴くなど、市民のニーズを掘り起こし、事業のマンネリ化防止を図る。

### 5 学識経験者の意見

目標値には達しなかったものの、昨年より全体の参加者数が増え、実施事業も多くなり、順調な実施状況と言える。引き続き内容の充実と新規講座の開拓に向けての工夫を期待する。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

**1 目的**  
 家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育む。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図る。

<b>2 具体的事業</b>	
施策を構成する事業	目標指標
21「協働教育推進事業」	協働教育各種推進事業への参加人数
事業概要及び目標	現状値 (平成28年度) 2,684人 目標値 (平成29年度) 2,900人 実績値 (平成29年度) 2,472人 達成率 85.2%
地域住民がボランティアとして子どもたちの学習および体験活動等を支援する学校支援ボランティア推進事業や地域活動支援事業などを実施し、家庭・地域・学校が連携・協力して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。 また、「放課後子ども教室」により、安心安全な活動拠点による子どもたちの学習活動や体験活動への取組を推進する。	

**3 平成29年度の取組と自己評価**

**取組と成果**  
 地域住民の協働教育の意義と重要性への理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育事業を実施した。  
 全ての学校が指定校となるよう推進した結果、今年度は、小学校では指定校を含む全12校が、中学校は8校中4校が協働教育事業を実施した。

事業名	期日	対象	事業内容	参加人数(人)
第1回協働教育推進委員会	8月～3月	協働教育推進委員ほか	協働教育事業の推進に係る協議(実施予定事業に関する協議)	21
栗原地区協働教育研修会	3/13	協働教育推進委員ほか	協働教育事業の推進に係る協議・評価・検証、学校支援ボランティア活動に関する体験発表等	40
学校支援ボランティア推進事業(推進指定校)	通年	一迫小学校	トマト栽培の見学及び講話、紙芝居・絵本の読み聞かせ、ゆり園の花壇整備・球根植え、ヘチマ水集め等	68
		栗駒南小学校	絵本の読み聞かせ、田植え・稲刈り体験、サツマイモ苗植え、イチゴ農園見学、ジオパーク学習、ミンシ縫い、しめ縄づくり、ぬかどかまど炊飯・脱穀作業等	272
学校支援ボランティア推進事業(推進指定校以外)	通年	築館小学校	読み聞かせ、クラブ活動支援、交通安全教室補助、サツマイモ植え付け支援、歯科講話歯みがき支援、志教育講師(消防士他)等	104
		宮野小学校	読み聞かせ、陸上教室、夏休学習会、「いちようの里」との交流等	68
		若柳小学校	読み聞かせ、図書室の本の補修・整理、昔語り・民話・おらべ歌、書道クラブ指導・書きぞめ指導、地域芸術指導、職業選択の生き方についての講話等	51
		栗駒小学校	読み聞かせ、運動会リズムダンス指導、運動会会場設営、老人クラブとの交流会、キャップハンディ体験活動、ジオパーク学習(栗駒ダム見学・栗駒山崩落跡見学)等	72
		高清水小学校	サツマイモ苗植え、高清水のそばについて講話、そば打ち体験、茶道指導、太鼓指導、読み聞かせ、海苔巻づくり等	41
		瀬峰小学校	読み聞かせ、合唱指導、体力・運動能力調査補助、瀬峰の達人調べ、校外学習補助等	103
		鶯沢小学校	文字基句の指導、昔の遊び指導、白鷺太鼓の指導、本の読み聞かせ	15
		金成小学校	登校時の交通安全の指導と支援、りんご農家見学、栽培、収穫体験、稲作栽培活動、ホルルの生息についての学習支援、学習支援、書きぞめの学習支援、読書指導等	52
		志波姫小学校	交通安全指導、読み聞かせ、環境保全、よさこい指導、書道、スポーツテスト補助等	61
		花山小学校	こんにやくの栽培・収穫・こんにやく作り、沢登り・沢遊び、ネイチャークラブ、婦人会との交流、北ノ前お茶っこの会との交流、さくら園まつり、親子料理教室、ノルディックスキー等	145
		築館中学校	浴衣の着付け、郷土料理の指導補助、生け花、お茶の作法指導	20
		栗原西中学校	農業体験学習(2回)	21
		瀬峰中学校	瀬峰の農業について(講話)、瀬峰農業体験(田んぼアート)、瀬峰地域巡検(2回)	16
		金成中学校	文化・歴史講話、図書司書ボランティア、キャップハンディ体験の指導と支援、書写(毛筆)指導と支援、書きぞめ毛筆指導	12
地域活動支援事業	12月	築館・志波姫地区	築館ジュニア・リーダー人形劇祭	70
	12月	若柳・金成地区	かんなりクリスマス子ども祭り ほか	227
	7月～12月	栗駒・鶯沢地区	平成29年度モデル子ども会等活動助成事業 ほか	300
	12/13	瀬峰・高清水地区	リサイクルムコシバレード ほか	451
	1/5～2/4	一迫・花山地区	第18回小・中学生新春書初め会 ほか	242
			計	2,472

<b>B</b>	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

**4 平成30年度に向けた課題・今後の方針**  
 地区や学校において取組の意識に差異があり、内容にばらつきがみられる。 → 地域と学校の連携を強くするため、地域、学校及び教育委員会を繋ぐ組織として、地域学校協働本部の設置について検討していく。

**5 学識経験者の意見**  
 参加人数は前年度より少なかったものの、中学校で実施校が増えるなど、成果は見えてとることができる。地域と学校の連携は重要な課題であり、引き続き課題の解決に取り組んでほしい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

### 1 目的

図書館活動を通じて市民の生活に役立つような文化・教養の向上に努め多くの市民の読書活動を推進する。そのため、図書等貸し出し環境の整備や各種事業やサービスの提供を行う。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

22「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」

事業概要及び目標

栗原市立図書館と9箇所の図書室を結ぶネットワークシステムの有効活用、「図書館まつり」・「ブックスタート・セカンドブック」などの各種事業や「レファレンスサービス」など各種サービスの実施、移動図書館車の運行などとおして、図書館および図書室の利用を促し、市民の読書活動を推進する。

目標指標

市民一人あたりの図書貸出数

現状値（平成28年度）	3.0冊
目標値（平成29年度）	3.1冊
実績値（平成29年度）	3.0冊
達成率	96.8%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

平成29年度より、これまでの金成生涯学習センター図書室と一迫ふれあいホール図書室（情報サロン）に加え、新たに7公民館図書室を栗原市立図書館とネットワークで繋ぎ、相互の蔵書検索が可能となり、全ての対象施設から貸出、返却が可能となった。

また、乳幼児の頃から絵本に親しんでもらえるよう「ブックスタート・セカンドブック」や「読み聞かせ」などの各種事業を実施したり、図書館をPRし、市民の読書活動の向上を促進するため「図書館まつり」を開催し啓蒙活動を行った。併せて「レファレンスサービス」や移動図書館車の運行を通して市民の読書活動を推進した。

年度	総貸出冊数	総人口（年度末）	市民一人あたりの図書貸出数
平成25年度	201,822冊	73,096人	2.8冊
平成26年度	223,493冊	71,924人	3.1冊
平成27年度	217,994冊	70,895人	3.1冊
平成28年度	212,922冊	69,717人	3.0冊
平成29年度	206,405冊	68,946人	3.0冊

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

市民一人あたりの図書貸出数がわずかであるが減少しているため、歯止めをかける取組が必要である。



図書館システムに未登録の書籍があることから登録作業を進め検索蔵書数を増やし、図書館ネットワークシステムを有効活用されるよう周知する。

### 5 学識経験者の意見

図書貸し出し数は目標値に達しなかったが、蔵書検索や図書館サービスが利用できる図書室が増加するなど、重要な取組が行われている。図書館は市民にとっての重要な文化施設であり、引き続き充実に向けた取組を期待したい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進		担当課 社会教育課

### 1 目的

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

#### 23「青空大使派遣事業」

事業概要及び目標

市内在住の中学2年生をオーストラリアに派遣し、グレートバリアリーフや熱帯雨林などの大自然に触れ、ファームステイや現地での学校訪問を通して、海外の生活・文化、風土等の直接体験や現地の中学生や家庭との交流を行うことにより、異文化理解の重要性を知る機会とし、将来を担う国際的視野を持った人材を育成することを目標とする。

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

面接やグループワーク等により選抜された市内在住の中学2年生20人を6泊7日でオーストラリアに派遣し、ファームステイや現地校での授業体験や生徒との交流を通して英会話能力の向上や異文化に触れる機会とした。

また、グリーン島やキュランダでの研修では、世界遺産のグレートバリアリーフや熱帯雨林などに触れ、自然保護の重要性について学習する機会となった。

海外研修の前に5回の国内研修を開催し、英会話のレッスンやホームステイ体験についての講話を行い、現地学校交流時に行うプレゼンやダンスの練習を通して、個人の能力や団員相互の団結力など事業に参加するにあたっての意識を向上させ、事後に行った2回の研修において研修の成果をまとめ発表させ本事業の総括とした。

事後に行ったアンケートでは、「たくさんの外国の人と出会って、英語でコミュニケーションできた」「英語だけの社会を体験でき、英語力がついた（自信がいった）」「異文化交流ができた、異国の文化に触れることができた」の感想や「リスニングや英語の勉強を多くしておけばよかった」「食文化や自然について調べておけばよかった」の反省点について聞くことができた。

	期 日	研 修 内 容
結団式	5/12（金） ※保護者参加	市長あいさつ、団員紹介、激励・決意のことば
第1回		事業概要説明、旅行説明
第2回	5/21（日）	アイスブレイキング、健康管理について、班別研修、英会話レッスン
第3回	6/18（日）	ダンス練習、班別活動（学校交流プレゼン練習、英会話レッスン）
第4回	7/2（日）	英会話レッスン、ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン・ダンス練習等
第5回	7/14（金） ※保護者参加	事前連絡、旅行説明、プレゼンリハーサル
海外研修	7/23（日）～7/29（土）	現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ、アボリジニ文化体験、熱帯雨林散策（世界遺産）等自然体験 他
第6回	8/19（土）	研修報告準備、壁新聞作成
第7回		研修報告準備
解団式	9/10（土） ※保護者参加	市長・団長あいさつ、ねぎらいのことば、研修報告、団員代表のことば

評 価

**B**

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

参加者のアンケートによると、英会話やリスニングがあまりよくできなかった状況が見られた。海外研修の前に、英会話能力を高められるよう意識づけが必要である。



参加者の意識や英会話能力を高め、より有効な事業となるよう事前研修を更に充実させる。

### 5 学識経験者の意見

報告書を読むと、参加者がそれぞれ貴重な体験をし、大きく成長したことがわかる。重要な事業であり、継続とさらなる内容的発展を期待したい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	地域に根ざした文化芸術の振興
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進		担当課 社会教育課

### 1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

### 2 具体的事業

#### 施策を構成する事業

24「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチ(※)ほか各種芸術鑑賞会」

(※)音楽アウトリーチ・・・プロのアーティストを学校等に派遣して、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う音楽の普及活動。

#### 事業概要及び目標

優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。

#### 目標指標

参加人数

現状値(平成28年度) 19,263人  
目標値(平成29年度) 20,000人  
実績値(平成29年度) 19,300人  
達成率 96.5%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

#### 取組と成果

優れた文化芸術に触れる機会の充実を図り、地域文化の創造に努めるため、各種文化事業を開催した。今年度は、「宮城県民文化祭」や「能・狂言公演」、「梅沢富美男特別講演」など参加人数の多い事業が見られた反面、継続して行ってきた事業において参加人数の減少が見られた。

事業名	開催日	人数	前年度人数
1 第80回河北美術展栗原展	5/16~21	1,190	1,646
2 小学校6年生~中学校3年生芸術鑑賞会	6/7	1,167	908
3 小学校1年生~4年生芸術鑑賞会	7/5~6	1,750	1,747
4 舞台フィルマイトウンコンサートin栗原	8/27	319	467
5 音楽アウトリーチ事業	9/14~15	380	374
6 ジャズコラが栗原2017	10/1	693	663
7 青少年劇場小公演	10/3~4, 6	977	781
8 心にさざむ 文化講演会	10/14	508	656
9 宮城県民文化祭	10/21~22	2,037	-
10 宮城県巡回小劇場(演劇)	11/9	202	170
11 けやきステージ2017	12/17	295	239
12 美術ワークショップ	2/14	49	41
13 第11回栗原市写真展	2/25~3/5	380	583
14 NHKのど自慢	3/10	789	-
計		10,736	

事業名	開催日	人数	前年度人数
1 第16回 みてけらいん美術展	6/16~25	568	488
2 第53回 宮城水彩展「栗原展」	7/7~16	445	526
3 第21回 栗原市工芸展	8/1~6	297	525
栗原文化会館30周年記念事業 4 業~能・狂言鑑賞会~「栗原能」	9/23	933	-
5 第30回 栗原書道展	11/4~12	210	276
6 第30回 栗原市美術展	11/14~19	335	550
栗原文化会館30周年記念事業 7 特別公演「梅沢富美男」 魅力の総て	3/25	970	-
8 寄贈作品の常設展示	4月~3月	3,200	3,174
計		6,958	

事業名	開催日	人数	前年度人数
1 親子芸術鑑賞会	7/1	501	501
2 ダンスフェスティバル2017	8/27	359	303
3 劇団四季ファミリーミュージカル	9/24	390	461
4 わかやなぎ音楽祭	2/3	107	295
5 ふるさと劇場~民話とわらべ歌~	3/4	249	-
計		1,606	

社会教育課実施事業 計	14事業	10,736人
栗原文化会館実施事業 計	8事業	6,958人
若柳総合文化センター実施事業 計	5事業	1,606人
合計	27事業	19,300人

(継続している事業について、前年度人数を記載)

### 評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

継続して実施している事業への参加者数確保の工夫が必要となっている。



PR方法を工夫するなど、各事業への参加者確保に努める。

### 5 学識経験者の意見

参加人数は目標値に達しなかったものの多くの事業が展開され、昨年度とほぼ同程度の参加者があり、順調な事業展開であると言える。



施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・継承活動の推進		担当課 文化財保護課

**1 目的**  
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

<b>2 具体的事業</b>	
施策を構成する事業	目標指標
25「史跡伊治城跡整備事業」	/
事業概要及び目標	
貴重な文化遺産である史跡伊治城跡を後世に残すとともに、栗原市の歴史環境の重要なひとつとして、広く市民に親しまれるような整備を進める。	

**3 平成29年度の取組と自己評価**

**取組と成果**

伊治城跡の発掘調査を実施し、その成果及び文化庁調査官の指導並びに史跡伊治城跡調査整備指導委員会の意見を反映させ、史跡伊治城跡整備基本計画を策定した。  
また、発掘現場での現地説明会を行なうことにより、保存・活用に対する市民意識の高揚を図ることができた。

○史跡伊治城跡調査整備指導委員会 3回開催  
○史跡伊治城跡整備基本計画

事業年度	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)	H35 (2023)	H36 (2024)	H37 (2025)	H38 (2026)	H39 (2027)	H40 (2028)	H41 (2029)	H42 (2030)	H43 (2031)
第1次整備事業	条件整備	条件整備	条件整備 測量	基本設計	実施設計 整備工事 工事監理	実施設計 整備工事 工事監理	実施設計 整備工事 工事監理	実施設計 整備工事 工事監理	整備工事 工事監理					
第2次整備事業					条件整備	条件整備	条件整備	条件整備 測量	基本設計	実施設計 整備工事 工事監理	実施設計 整備工事 工事監理	実施設計 整備工事 工事監理	実施設計 整備工事 工事監理	整備工事 工事監理
第3次整備事業										条件整備	条件整備	条件整備	条件整備 測量	基本設計
発掘調査第6次5ヶ年計画	○	○												
発掘調査第7次5ヶ年計画			○	○	○	○	○							
発掘調査第8次5ヶ年計画								○	○	○	○	○		

- 史跡伊治城跡第44次発掘調査現地説明会  
・日時 平成29年9月23日(土) 10:30~12:00  
・見学者数 62人  
・報道機関 3社3人

**評価**

<b>A</b>	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

**4 平成30年度に向けた課題・今後の方針**

第1次整備事業を円滑に進めるため、対象地内の不用物除去等条件整備を図るとともに、引き続き政庁の内容確認のため発掘調査を実施する必要がある。

➡

第1次整備事業対象地内の条件整備として、不用物除去等を行なうとともに、今後策定する基本設計に的確に反映させるため、計画的かつ効率的に発掘調査を実施する。

**5 学識経験者の意見**

基本計画の策定、現地説明会の実施など、重要な展開があった。引き続き、着実に事業継続を行ってほしい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進																																																								
	具体的施策	文化財の保存・継承活動の推進		担当課 文化財保護課																																																								
<b>1 目的</b>																																																												
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。																																																												
<b>2 具体的事業</b>																																																												
施策を構成する事業			目標指標																																																									
26「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」																																																												
事業概要及び目標																																																												
指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動を行う個人・団体及び伝統技術や民俗芸能を継承する個人・団体に対する活動支援策として、補助金を交付する。																																																												
<b>3 平成29年度の取組と自己評価</b>																																																												
取組と成果																																																												
指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動を行う個人・団体に対し補助金を交付し、保護活動を支援することができた。 また、伝統技術や民俗芸能を継承する個人・団体に対し補助金を交付し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や、教室・講習会・発表会を行う会場使用料などの負担を軽減し、伝承活動を支援することができた。																																																												
○補助金の交付状況																																																												
<table border="0"> <tr> <td>・指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動に対する補助金</td> <td>2個人・1団体</td> <td>242,970円</td> </tr> <tr> <td>・無形文化財保存伝承に対する補助金</td> <td>1個人</td> <td>95,000円</td> </tr> <tr> <td>・無形民俗文化財保存団体に対する補助金</td> <td>10団体</td> <td>473,100円</td> </tr> </table>					・指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動に対する補助金	2個人・1団体	242,970円	・無形文化財保存伝承に対する補助金	1個人	95,000円	・無形民俗文化財保存団体に対する補助金	10団体	473,100円																																															
・指定文化財や史跡、天然記念物等の保護活動に対する補助金	2個人・1団体	242,970円																																																										
・無形文化財保存伝承に対する補助金	1個人	95,000円																																																										
・無形民俗文化財保存団体に対する補助金	10団体	473,100円																																																										
○無形文化財・民俗文化財の指定件数 (単位：件)																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>大分類</th> <th>中分類</th> <th>小分類</th> <th>国指定</th> <th>県指定</th> <th>市指定</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">無形文化財</td> <td>芸能</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工芸技術</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">民俗文化財</td> <td>有形民俗文化財</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">無形民俗文化財</td> <td>風俗慣習</td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>民俗芸能</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>32</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>民俗技術</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>39</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>					大分類	中分類	小分類	国指定	県指定	市指定	計	無形文化財	芸能						工芸技術			1	1	2	小計			1	1	2	民俗文化財	有形民俗文化財				4	4	無形民俗文化財	風俗慣習		1	3	4	民俗芸能	1	1	32	34	民俗技術						小計		1	2	39	42
大分類	中分類	小分類	国指定	県指定	市指定	計																																																						
無形文化財	芸能																																																											
	工芸技術			1	1	2																																																						
	小計			1	1	2																																																						
民俗文化財	有形民俗文化財				4	4																																																						
	無形民俗文化財	風俗慣習		1	3	4																																																						
		民俗芸能	1	1	32	34																																																						
		民俗技術																																																										
小計		1	2	39	42																																																							
<b>評 価</b>																																																												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)																																																											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)																																																											
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)																																																											
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)																																																											
<b>4 平成30年度に向けた課題・今後の方針</b>																																																												
団体が求める支援策について、活動状況や実情をもとに、検討し、適切に実施することが重要となっている。			➡	団体が求める支援策について、慎重に聞き取り、話し合い、課題解決を図る。																																																								
<b>5 学識経験者の意見</b>																																																												
地域の文化遺産の継承にとって重要な事業である。継続的かつ着実な事業展開を行ってほしい。文化財継承者・継承団体の状況をよく把握し、必要な支援が確実に行われるように期待する。																																																												

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・継承活動の推進		担当課 文化財保護課

### 1 目的

先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

27「標柱等更新計画の策定」

目標指標

標柱確認状況（旧町村）

現状値（平成28年度）  
7/10地区

目標値（平成29年度）  
全地区完了及び計画の策定

実績値（平成29年度） 10/10地区  
達成率 100%

事業概要及び目標

旧町村時代に文化財関係部局にて設置した指定・未指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の標柱・説明板に経年劣化が見られるため、標柱・説明板の劣化状況を確認し、劣化の度合いに応じた標柱等更新計画の策定を進める。

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

全地区の文化財標柱等の確認作業が終了し、平成30年度からの改修計画を策定することができた。

標柱等更新計画策定の基礎資料

（単位：基）

	設置済数 (A)	更新予定数 (設置済数の内数) (B) (d+e+f)	他標柱内に記載等のある文化財数 (C)	新設予定数 (D)	合計 (A+C+D)	標柱等の状態						
						状態良好 (a)	損傷度微 (b)	損傷度小 (c)	損傷度中 (d)	損傷度大 (e)	損傷度大 (f)	その他 (石裂、設置者不明) (g)
築館	29	8	5	43	77	9	6	3	5	2	1	3
若柳	41	8	17	20	78	16	11	0	5	1	2	6
栗駒	95	52	41	38	174	8	14	18	34	7	11	3
高清水	65	9	19	24	108	0	2	5	4	5	0	49
一迫	178	80	53	9	240	1	37	56	66	9	5	4
瀬峰	60	4	10	66	136	1	0	1	3	1	0	54
鶯沢	20	3	3	0	23	1	13	3	3	0	0	0
金成	68	19	7	34	109	18	13	15	14	2	3	3
志波姫	59	32	4	7	70	8	8	3	31	1	0	8
花山	67	20	13	24	104	12	8	7	10	5	5	20
総数	682	235	172	265	1,119	74	112	111	175	33	27	150

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

計画策定が終了したことから、平成30年度以降は、更新(改修)事業を実施する。



更新計画期間を5年として、今年度25基の更新を行う。更新の順番は、損傷度合いや設置場所等を勘案して毎年度定める。

### 5 学識経験者の意見

計画通りに確認作業・改修計画が策定された。計画に沿ってしっかりと更新が行われることを期待する。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

### 1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。  
（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

#### 28「栗原ハーフマラソン大会」

事業概要及び目標

子どもから高齢者まで、多くの市民が参加しやすいよう種目を設定し、日本陸上競技連盟の公認を取得した、栗原市ハーフマラソンコースを会場に開催する。参加ランナーには「する」楽しさ、応援・協力をいただく方々には「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを体感しながら健康増進、体力向上を図れるような大会運営とする。

目標指標

大会参加人数

現状値（平成28年度）	1,314人
目標値（平成29年度）	1,800人
実績値（平成29年度）	1,526人
達成率	84.8%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

出走者数1,526人（うち親子ペア266人）であり、その内市民は392人（うち親子ペア152人）の出走があった。就学前の子どもから高齢者まで、当日は強風に見舞われながらも、多くの参加者が秋晴れのもと健脚を競い、爽やかな汗を流し健康増進及び体力の向上が図られた。  
また、大会には、前大会を上回る多くの市民がボランティアに参加し、さらに、沿道からも大きな声援があり、参加者との交流も図られた大会となった。  
しかしながら、申込者数と出走者は、前大会から大幅な増となったものの目標値には達しなかった。

第3回栗原ハーフマラソン大会

11月12日（日）開催

部門名	申込人数	うち市民	出走人数	うち市民
1 ハーフ	877人	64人	750人	57人
2 10km	261人	35人	227人	33人
3 5km	124人	32人	104人	28人
4 2km	196人	130人	179人	122人
5 2km（親子ペア）	284人 (142組)	162人 (81組)	266人 (133組)	152人 (76組)
合計人数	1,742人	423人	1,526人	392人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

大会参加者や関係団体の意見を基に、参加しやすい新部門を設けることや、運営や設備を充実させる必要がある。



新部門を設けることにより、参加者の増加が見込まれることから、関係団体と協力しながら、運営、設備を充実させる。また、快適な競技環境をつくり、参加者の満足度の向上を図る。

### 5 学識経験者の意見

参加者数は、目標値には達しなかったが前年度より増加しており、順調な事業運営が行われていると言えよう。ただし市民の申込者・出走者数は部門によっては減少しており、市民参加の工夫を検討する必要があるかもしれない。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

### 1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。  
(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

### 2 具体的事業

#### 施策を構成する事業

29「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」(高校陸上大会、東北中学校卓球大会、体力・運動能力調査)

#### 目標指標

各種大会参加人数

現状値 (平成28年度)	2,456人
目標値 (平成29年度)	2,500人
実績値 (平成29年度)	2,434人
達成率	97.4%

#### 事業概要及び目標

市民の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携しスポーツ大会等を開催する。  
また、市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を進める。

### 3 平成29年度の取組と自己評価

#### 取組と成果

○スポーツ大会等の実施状況

- ・参加者の健康増進及び体力・競技力の向上を図るため、各種大会を開催した。
- ・小学校陸上競技大会は、各校の協力もあり多くの児童が参加できた。

#### 【大会新記録種目】

女子6年100m、女子5・6年生共通ジャベリックボール投

#### 【高校陸上県高校記録種目】

男子：1,500m、400mH、3,000mSC、5,000mW、4×400mR、ハンマー投  
女子：400mH、4×100mR、4×400mR

事業名	期日	対象者	参加人数	
			H29	H28
東北中学校卓球大会	5月27日～28日	東北地方の中学生	679人	683人
小学校陸上競技大会	6月11日	市内小学校4年生以上	977人	870人
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7月22日～23日	県内高校生	768人	885人
体力・運動能力調査	6月～10月	市内在住31歳～70歳	10人	18人
合計			2,434人	2,456人

### 評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)  
B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)  
C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)  
D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

各事業において、大会が重なると欠場となる学校が出てくるため、大幅な参加者の減となる。



今後は、各事業スケジュールの確認を行い、必要があれば参加校との調整を行い参加者確保に努める。また、関係者や各競技団体と協力しながら、現在の体制を維持、継続し、運営や設備の充実を図る。

### 5 学識経験者の意見

今回の反省点をいかして、より充実した大会運営を目指してほしい。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

### 1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。  
（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

### 2 具体的事業

施策を構成する事業

#### 30「宮城ヘルシー2017ふるさとスポーツ祭 栗原地区大会」

事業概要及び目標

子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に、楽しく参加できるように種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かした一大スポーツ・レクリエーションの祭典として開催する。

目標指標

大会参加人数

現状値（平成28年度）	4,079人
目標値（平成29年度）	4,200人
実績値（平成29年度）	5,468人
達成率	130%

### 3 平成29年度の取組と自己評価

取組と成果

スポーツを通して地域住民の親睦を深めるとともに生涯スポーツの振興を図ることができた。当日は雨天中止の種目もあったが、地区予選会への参加者が多かったことから、目標値に達することができた。

【開催日】8月20日（日）

【会場】栗駒総合体育館、栗駒野球場、サン・スポーツランド栗駒

【種目・参加人数】本大会・予選会の参加者総数 5,468人

大会参加人数

種目	チーム数	参加人数
ソフトボール	雨天中止	0人
家庭バレーボール	10	170人
家庭バレーボール（シニア）	5	96人
ベタング（シニア）	10	68人
ベタング（フリー）	10	76人
グラウンド・ゴルフ	雨天中止	0人
健康づくりコーナー		76人
ニュースポーツ体験		87人
ロープジャンプチャレンジ		48人
合計	35	621人

地区予選会参加人数

種目	参加人数
ソフトボール	2,021人
家庭バレーボール	1,387人
家庭バレーボール（シニア）	44人
ベタング（シニア）	387人
ベタング（フリー）	139人
グラウンド・ゴルフ	869人
合計	4,847人

大会参加人数	621人
地区予選会参加人数	4,847人
合計	5,468人

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

### 4 平成30年度に向けた課題・今後の方針

子どもから高齢者まで多くの市民が参加できる大会である。更なる参加者の増に向け、子どもと高齢者が楽しめる種目の検討が必要である。



この大会は、市内全域で予選会があり、多くの市民が参加できる。今後も、各競技団体の協力を得ながら、種目の検討などを行い、参加機会の提供に努め、参加人数の安定を図る。

### 5 学識経験者の意見

参加者が大幅に増加した。引き続き多くの市民が安定して参加できるよう、取組の継続を期待する。

### 3 学識経験者からの意見（総評）

小 塩 さとみ 氏

金 田 裕 子 氏

#### 【全体を通しての意見】

昨年度の施策と比較すると、多彩な取組の中でも、類似の事業の統合や各事業の目的の明確化が図られていることが見て取れる。また、豊かな文化財の保存、文化芸術・スポーツ活動の充実を背景に、学校づくりに関する取組と地域社会の活性化・生涯学習の充実にバランスよく取り組まれていることが分かる

#### 「一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり」（事業No.1～15）

学校づくりの施策では、学力向上に対する取組といじめ・不登校への対策に多方面から取り組まれている。学力向上に対する取組の多様さは、学校や教員への負担増加や、目標指標を過剰に意識する結果にもつながりかねない。各事業が児童生徒の学習の質の向上につながっていくよう、今後も事業相互の連携や統合を検討していただきたい。また、いじめ・不登校への対策と、授業改善や学級づくりといった教室環境の整備、小中の学習観や生活環境の差異の共有などを重ね合わせて検討していくことも、今後期待したい点である。

#### 「共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造」（事業No.16～23）

生涯学習の分野での多彩な事業は、どれも魅力的である。「生涯にわたる学習機会の提供」（16～20）について、あらゆる年代を対象とした学習機会の提供が行われ、事業の運営も概ね順調である。より充実した事業展開を期待したい。

「生涯学習の支援・社会教育事業や施設の充実」（21～22）及び「国際理解のための学習や事業の推進」（23）について、着実に事業展開が行われている。より充実した支援や事業が展開されることを期待したい。「青空大使派遣事業」は若い世代が異文化を体験する重要な事業であり、着実に成果をあげている。

また、図書館における読書活動推進や青空大使派遣事業は、学校づくりにおける事業との関連も深く、学校教育における位置づけの明確化、活用が期待される。

#### 「地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進」（事業No.24～27）

「文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進」（24）について、着実に実施されている。より一層の支援と推進を期待する。

「文化財の保存・継承活動の推進」（25～27）について、着実に実施されている。地道ながら重要な分野であり、継続的な取組を期待する。

#### 「楽しさと活力ある生涯スポーツの推進」（事業No.28～30）

スポーツ活動の充実は、子どもから大人まで幅広い年代層における市民の出会いの場ともなり、児童生徒の体力向上・意欲促進にもつながっており、順調に実施されていると推察できる。引き続きより一層の充実に向けて取組をお願いしたい。

## 4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価を実施した。学識経験者として宮城教育大学のお二人の先生からいただいたご意見を踏まえて、今後の取組を次のようにまとめた。

### 「一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり」(事業No.1～15)

本市の学力の底上げは喫緊の課題であることから、平成29年度より「学力向上対策プロジェクト事業」を立ち上げ、全国トップクラスの学力を維持する秋田県大仙市への小・中学校教員の研修派遣、市独自の学力向上研究指定校の指定により、小・中学校の連携による学習指導方法や環境改善への取組を積極的に推進するとともに、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、それを授業改善や指導改善につなげ、学力向上を図っている。

しかしながら、学力向上に対する取組の多様さは、学校や教員への負担増加や、目標指標を過剰に意識する結果にもつながりかねない。その懸念の解消に向けて、各事業が児童生徒の学習の質の向上につながっていくよう、事業相互の連携や統合を検討していく必要性についてご意見をいただいた。

学力向上のみならず、いじめや不登校対策、ICTの効果的活用、道徳や小学校外国語(5・6年)の教科化等、課題が山積する学校現場において、今後とも、各事業に対する教員のニーズの把握や児童生徒の実態から課題を生む要因の分析に努め、教職員の研修事業の充実と、教員が集中して教育に臨める環境づくりへの支援、また、児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に意欲的に取り組むことができるよう、教育環境の整備等に努め、事業を推進してまいりたい。

### 「共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造」(事業No.16～23)

生涯学習の分野の多彩な事業は、どれも魅力的で、あらゆる年代を対象とした学習機会の提供が行われ、事業の運営も概ね順調であると評価をいただいた。

すべての市民が生涯にわたって学び続ける講座等の事業展開や、地域人材の育成と有効的な活用、稼働2年目となる図書館ネットワークシステムの充実・周知により、世代を超えた生涯学習の充実をさせてまいりたい。また、青空大使派遣事業では、引き続き、海外研修の一層の充実を努め、異文化に対する理解と国際社会に必要な資質と能力の育成に努めてまいりたい。

### 「地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進」(事業No.24～27)

文化芸術活動の推進、文化財の保存・継承活動の推進について着実に実施されていると評価をいただいた。

今後とも、事業内容を精査しながら、市民が行う文化芸術活動の支援に努めるとともに、優れた文化芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため文化講演会等の各種事業の充実を図ってまいりたい。

また、文化財の保存・継承活動については、引き続き、先人たちが遺した貴重な文



化遺産について、遺跡の解明、保存又は記録保存を行うとともに、伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての援助及び史跡・天然記念物等保存活動に対する支援を行ってまいりたい。

#### 「楽しさと活力ある生涯スポーツの推進」(事業No.28～30)

スポーツ活動の推進について順調に実施されていると評価をいただいた。

市民の健康増進と体力向上をめざし、子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に、楽しくスポーツ活動に取り組めるよう、今後とも競技団体等と連携・協力し、スポーツ活動の一層の推進を図ってまいりたい。

昨年度に引き続き、目標指標の設定と数値化を行い、分かりやすい評価に努めた。本結果を市議会はじめ、市民の皆さまに報告・公表することにより、事業の目的・効果・課題・改善策を常に意識しながら、更なる教育行政の推進と事業の充実に努めてまいりたい。